

中部高等学術研究所 年報

2025 年度



目 次

1. 中部高等学術研究所とは
 1. 1. 概要
 1. 2. 研究内容の変遷・過去の出版物
 - (1) 研究内容の変遷
 - (2) 過去の出版物
 1. 3. 研究所情報（所在地、組織体系）
 - (1) 所在地等
 - (2) 組織体系
 - (3) HP
 1. 4. 所員（2025 年度）
2. 所員（専任）の研究教育活動
3. 2025 年度に開催された研究会・シンポジウム等
4. 国際 ESD・SDGs センター
 4. 1. 国際 ESD・SDGs センター主催・共催事業
 - (1) 第 15 回中部大学 ESD・SDGs 研究・活動発表会
 - (2) 「中部大学 ESD・SDGs シンポジウム」の開催(第 30-32 回)
 - (3) 「中部大学 ESD 通信」の発行
 - (4) 学内の SDGs に関する研究・活動情報収集
 - (5) 国際 ESD・SDGs センターその他の活動
 4. 2. 国際 ESD・SDGs センター地域連携事業
 - (1) 中部 ESD 拠点協議会主催「中部サステナ政策塾」活動
 - (2) 中部 ESD 拠点主催「日本の祭りと SDGs プロジェクト」
(中部日本放送株式会社) の実施
 - (3) 中部 ESD 拠点 その他の活動
 - (4) 地域連携活動
 - (5) 愛知学長懇話会 SDGs 企画委員会
 - (6) 愛知県内の大学における SDGs 情報の収集・発信
 - (7) いのちをつなぐ水と流域・地球市民対話プロジェクト
5. 国際 GIS センター
 5. 1. 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点
 5. 2. アジアサマースクールインバンコク 2025 年

1. 中部高等学術研究所とは

1. 1. 概要

中部高等学術研究所は、1996 年に大学直属の研究所として、また私立大学ではわが国初の大学共同利用研究所として設置された。以来「学問の再構築」を目的とした文系・理系の枠にとらわれない共同研究拠点として活動を行い、学内のみならず国内外の多くの学外研究者が研究活動に関与してきた。これまで、「アジアにおける伝統文化」、「人間安全保障」、「学問の再構築：はかる」、「高等教育を考える－アウトカムズを中心に」等をテーマとして共同研究が行われた。その成果は、ユネスコ大学連合共同研究賞の受賞（2003 年）、「＜はかる＞科学」（2007 年 中公新書）や「変容する現代の大学教育を考える」（2012 風媒社）の上梓に繋がった。

2007 年より新しいテーマとして、「持続可能な発展のための教育 (Education for Sustainable Development :ESD)」を掲げ、この活動を中部大学の一つの核とすべく 2009 年に「国際 ESD センター」を研究所の附置センターとして開設した。更に 2011 年には、地理情報システム (Geographic Information System :GIS) の研究推進拠点として「国際 GIS センター」を附置センターとして開設した。このセンターは、2014 年に文部科学省 より「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」として認定された。2019 年に、国連 ESD の 10 年が終了し SDGs が開始されたことにともない、「国際 ESD センター」を「国際 ESD・SDGs センター」へと名称変更した。

中部高等学術研究所は、「持続可能な発展」が 21 世紀の人間社会の基本的な価値観になるとの認識に立ち研究を展開している。

1. 2. 研究内容の変遷・過去の出版物

(1) 研究内容の変遷

中部高等学術研究所（以下「中高研」）は、1996年に、大学直属の研究所として設置された。研究所のその後を顧みると、大きく6つの時期に区分できる。

第1期は、加藤秀俊所長の時代（1996年4月～2001年3月）で、アジアに関する事項が主な研究テーマになっている。

第2期は、武者小路公秀所長（2001年4月～2003年3月）のもと人間の安全保障が中心課題に採用されている。

第3期は、飯吉厚夫総長が所長に就任した時期（2003年4月～2011年5月）からである。新しい研究テーマとして「学問の再構築」を取り上げ、その第一歩として文理融合的テーマ「はかる」が選択され、23回の研究会を経て、「はかる—はかりはかれる人と世界—（上下）」が出版された。また、同時に「<はかる>科学」が2007年に中公新書の1冊として上梓された。

この「はかる」の後継研究として、「高等教育を考える—アウトカムズを中心に—」と「春日井コモンズ研究会」（テーマとして「いのち」と「科学と私」が採択されている）が発足している。

第4期は、2007年より新しい活動として、「持続可能な発展のための教育(Education for Sustainable Development :ESD)」が取り上げられている。ESDの活動は、2002年のヨハネスブルグでの第2回地球サミットでわが国が提案しそれが採択されて、世界的に活動が展開されている事業である。中部大学は、「持続可能な発展」が21世紀の人間社会の基本的な価値観になるとの認識に立ち、中高研でそれを基盤に現在の学問体系を再構築しようとの意志をもって研究を展開してきた。

第5期は、稲崎一郎所長（2011年6月～2015年3月）のもと、中高研と密接な連携を保って活動してきた「国際ESDセンター」（センター長 稲崎一郎）を中高研の付置センターとし、2011年度から中高研の付置センターとして発足した「国際GISセンター」（センター長 福井弘道教授）と合わせて2つのセンターを包含する研究所となった。

これら2つのセンターの有機的な連携を通して、「持続可能性」を基盤にした学問の再構築と地理情報システム(GIS)を積極的に利用した新しい実学の推進拠点として中高研の研究活動は展開している。また、2011年9月にはアジア工科大学院との学術協力に関する提携を結び、アジアの学生を中心としてサマースクールの実施や国際的な展開も図っている。

第6期は、現在の福井弘道所長（2015年4月～）のもと、ESD・SDGsとGISの二つのセンターの連携をさらに積極的に進めるべく、プロジェクトベースの共同研究もお行われるようになった。流域圏管理からSDGsの指標の可視化などをはじめ、デジタルアースを用いた情報・知識プラットフォームを構築して、地球的視野から地域のデザインを考え、環境や防災・減災など問題複合体に取り組む研究を深化させている。

(2) 過去の出版物

1) 単行本・新書

◎『RICE in asia —Lives of Seven Farmers—』

(2000 年出版 A PRELUDE Book under a Unitwin-Unesco Project)

◎『「コメとアジアのひとびと」—7 人の稲作農民の生活史—』(加藤秀俊 編)

(2003 年 3 月出版 ユネスコ (国連教育科学文化機関) UNITWIN (大学連合共同研究) 賞受賞)

◎『ラオスの楽器』(藤井知昭監修)

(2005 年出版 中部高等学術研究所)

◎『はかる—はかりはかられる人と世界』上下 2 巻 (阪上孝、長島昭編)

(2004 年 6 月～2007 年 1 月 中部高等学術研究所共同研究会報告集)

◎『<はかる>科学 計・測・量・謀.....はかるをめぐる 12 話』(阪上孝、後藤武編) 中公新書、中央公論新社

(2007 年 10 月出版 中部大学中部高等学術研究所創設 10 周年記念)

◎『高等教育のアウトカムズを考える—中部高等学術研究所 高等教育アウトカムズ研究会から—』

(中部高等学術研究所編)

(2010 年 12 月出版、2005 年 6 月～2006 年 3 月、2007 年 5 月～2008 年 10 月 中部高等学術研究所共同研究会報告集)

◎『科学と“私”—科学技術社会における個人性の回復—』(長島昭編)

(2011 年 2 月発行、2008 年 3 月～2010 年 3 月 中部高等学術研究所共同研究会報告集)

◎『変容する現代の大学教育を考える—学問の再構築を目指して—』(中部高等学術研究所編) 風媒社

(2012 年 3 月出版)

◎『持続可能な社会をめざして—「未来」をつくる ESD』(飯吉厚夫、福井弘道、稲崎一郎編) 平凡社

(2014 年 9 月出版)

2) Studies Forum Series

◎01.『21 世紀はアジアの世紀か?』

(1997 年 7 月 中部高等学術研究所研究会)

◎02.『変貌するアジアの農村』

(1997 年 10 月 オープンフォーラム)

◎03.『タイにおけるコミュニケーション・ギャップ』

(1998 年 2 月 中部高等学術研究所研究会)

- ◎04.『アジア諸都市における伝統文化とその変容～ポピュラー・カルチャーの形成～』
(1998年2月 中部高等学術研究所共同研究会) 24,
- ◎05.『アジア主義と普遍主義 — 文明間の衝突と対話』
(1999年7月 中部高等学術研究所研究会)
- ◎06.『共生のシステムを求めて～ 東南アジアを手がかりに ～』
(1999年11月 中部高等学術研究所研究会)
- ◎07.『諸民族の音文化（音楽）研究の課題と展望～ 新たな世紀を視座に入れつつ ～』
(2000年1月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎08.『宗教と国家統合～ ミャンマー連邦シャン州クン地区の事例の意味するもの ～』
(2000年6月 中部高等学術研究所研究会)
- ◎09.『音楽（音文化）研究の課題と展望』
(2001年2月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎10.第1回人間安全保障研究会
『「人間安全保障」の研究と実践』
第2回人間安全保障研究会
『「人間安全保障」の操作的定義をめざして』
(2001年10月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎11.『イスラーム文化の諸相』
(2002年3月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎12.第3回人間安全保障研究会
『「人間安全保障」の社会的・文化人類学的アプローチ』
(2002年4月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎13.第4回人間安全保障研究会
『公衆衛生と「人間安全保障」』
(2002年5月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎14.第5回人間安全保障研究会
『空とマンダラ』
(2002年7月 中部高等学術研究所研究会)
- ◎15.『人間と自然の共通の「安全保障」』
(2002年7月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎16.第6回人間安全保障研究会
『宗教と「人間安全保障」』
(2002年9月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎17.『照葉樹林文化論をめぐって』
(2002年10月 中部高等学術研究所研究会)
- ◎18.第7回人間安全保障研究会

- 『科学技術と「人間安全保障」』
(2002 年 12 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎19. 『アジアにおける文化クラスター(Ⅰ)～ ラーマーヤナの地域変容 ～』
(2003 年 1 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎20. 第 8 回人間安全保障研究会
『人間安全保障教育』
(2003 年 2 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎21. 第 9 回人間安全保障研究会
『防災と「人間安全保障」』
(2003 年 7 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎22. 第 10 回人間安全保障研究会
『人間の安全保障委員会最終報告書について』
(2003 年 7 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎23. 『南アジア北部と日本にみる人生儀礼の比較研究』
(2003 年 7 月 中部高等学術研究所研究会)
- ◎24. 第 11 回人間安全保障研究会
『「人間安全保障」とリスク』
(2003 年 10 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎25. 『アジアにおける文化クラスター(Ⅱ)～ 現代都市文化の変容 ～』
(2004 年 1 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎26. 第 12 回人間安全保障研究会
『「人間安全保障」研究の課題と展望』
(2004 年 1 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎27. 第 1 回共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」)
『“はかる”における相対と絶対共同研究』
(2004 年 6 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎28. 第 2 回共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」)
『人間をはかる、社会をはかる(1)』
(2004 年 7 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎29. 第 3 回 共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」
『科学技術史における感性と計量』
(2004 年 9 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎30. 第 4 回共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」
『世界をはかる“メタファー”：認知意味論の立場から』
(2004 年 10 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎31. 第 5 回共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」

- 『古代シュメールでどのように穀物が量られ、土地が測られたか』
(2004 年 11 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎32. 第 6 回 共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」
『世界をコントロールする“メタファー”』
(2004 年 12 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎33. 第 7 回 共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」
『江戸の珠算文化とその情報源共同研究』
(2005 年 1 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎34. 共同研究「アジアの文化クラスター(Ⅲ)」
『時代認識の変容 ― 英雄・カリスマ・アイドル像をめぐって ―』
(2005 年 1 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎35. 第 8 回 共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」
『生物現象をはかる ― モデル化と数量化の展開 ―』
(2005 年 2 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎36. 第 9 回 共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」
『学問の再構築について』
(2005 年 4 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎37. 第 10 回 共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」
『美をはかる(?)』
(2005 年 5 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎38. 第 1 回 共同研究「高等教育アウトカムズ研究フォーラム」
『教育評価方法の変遷と現状 倫理教育のアウトカムズ評価の事例と方法について』
(平成 17 年 6 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎39. 第 11 回 共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」
『空間をはかる』
(2005 年 6 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎40. 第 12 回 共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」
『数量経済史という方法』
(2005 年 7 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎41. 第 13 回 共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」
『健康をはかる、病気をはかる』
(2005 年 9 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎42. 第 2 回 共同研究「高等教育アウトカムズ研究フォーラム」
『技術者倫理から科学技術倫理まで：現状と概念の整理―アウトカムズとは？ 研究評価の事例から―』
(2005 年 10 月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎43.第 14 回 共同研究「はかる ―はかりはかられる人と世界」
『地表をはかる』
(2005 年 10 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎44.『アジアにおける文化クラスター(Ⅳ) ―叙事詩の系譜と変容―』
(2006 年 1 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎45.第 15 回 共同研究「はかる ―はかりはかられる人と世界」
『こころをはかる：複雑系としての脳』
(2006 年 1 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎46.第 16 回 共同研究「はかる―はかりはかられる人と世界」
『環境をはかる：技術者の視点』
(2006 年 2 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎47.第 3 回 共同研究「高等教育アウトカムズ研究フォーラム」
『エンジニアリングデザインと技術者倫理』
(2006 年 3 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎48.第 17 回 共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」
『気と脈で国土をはかる』
(2006 年 4 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎49.第 18 回 共同研究「はかる―はかりはかられる人と世界」
『アフォーダンスという単位』
(2006 年 5 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎50.第 19 回 共同研究「はかる―はかりはかられる人と世界」
『キログラムの再定義をめぐる最近の動き』
(2006 年 6 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎51.第 20 回 共同研究「はかる―はかりはかられる人と世界」
『心を読み、はかり、つなぐ―アラビアからインドへ―』
(2006 年 7 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎52.共同研究「地域の持続可能な発展のための教育と人間安全保障」研究会
(2006 年 9 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎53.第 21 回 共同研究「はかる―はかりはかられる人と世界」
『罪の重さをはかる』
(2006 年 11 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎54.第 22 回 共同研究「はかる―はかりはかられる人と世界」
『文明／野蛮をはかる』
(2006 年 11 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎55.第 23 回 共同研究「はかる―はかりはかられる人と世界」
『「文化の豊かさ」がはかれるか』

(2007 年 1 月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎56.第 1 回 共同研究「高等教育を考えるーアウトカムズを中心に」研究会
『大学に先生は必要か』

(2007 年 5 月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎57.第 2 回共同研究「高等教育を考えるーアウトカムズを中心に」研究会
『大学の機能と高等教育のパラダイム』

(2007 年 7 月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎58.第 3 回 共同研究「高等教育を考えるーアウトカムズを中心に」研究会
『工学部の教育改革と教育におけるアウトカムズ』

(2007 年 9 月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎59.共同研究「持続可能な発展のための教育 (ESD) ー第 1 回～第 3 回ー」研究会
(2007 年 7 月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎60.第 4 回 共同研究「高等教育を考えるーアウトカムズを中心に」研究会
『教育のアウトカムズを向上させるためのささやかな試み』

(2007 年 10 月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎61.第 5 回 共同研究「高等教育を考えるーアウトカムズを中心に」研究会
『わが国の科学技術政策の課題』

(2007 年 12 月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎62.第 6 回 共同研究「高等教育を考えるーアウトカムズを中心に」研究会
『学部教育が抱える問題への対応』

(2008 年 3 月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎63.ブレ研究会 共同研究「春日井コモンズ」研究会
『コモンズの再構築』

『いのちー植物・動物・人間、科学・技術・文化ー』

『いまだに「私」はデータをまとめられるか？ー＜ポストモダン＞にかんする 1 つの
思想史的考察』

(2008 年 3 月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎64.第 7 回 共同研究「高等教育を考えるーアウトカムズを中心に」研究会
『日本の科学／技術はどこへ行くのか』

(2008 年 4 月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎65.第 1 回 共同研究「春日井コモンズ」研究会
『科学と〈私〉ー 個体の消滅と復活』

(2008 年 6 月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎66.第 8 回 共同研究「高等教育を考えるーアウトカムズを中心に」研究会
『『教養』教育は可能か？』

(2008 年 6 月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎67.第2回 共同研究「春日井コモンズ」研究会
『都市狩猟採集民の家—浅草・隅田川に建つ0円ハウス—』
(2008年6月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎68.第9回 共同研究「高等教育を考える—アウトカムズを中心に」研究会
『中央教育審議会報告「学士課程教育の構築に向けて」を読んで—日米両国における大学ビジョンの比較を中心に—』
(2008年8月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎69.第3回 共同研究「春日井コモンズ」研究会
『「いのち」と「ヒト」の原点を考える』
(2008年9月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎70.第10回 共同研究 高等教育を考える—アウトカムズを中心に」研究会
『新しい医科学への道—高橋暁正の目指したもの—』
(2008年10月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎71.第4回 共同研究「春日井コモンズ」研究会
『中国思想における「いのち」』
(2009年9月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎72.第5回 共同研究「春日井コモンズ」研究会
『“生きている”を見つめ“生きる”を考える』
(2009年9月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎73.第6回 共同研究「春日井コモンズ」研究会
『数量化社会のほころびと再生—“私”の視点から』
(2009年8月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎74.第7回 共同研究「春日井コモンズ」研究会
『科学と「私」—問題の系譜』
(2010年1月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎75.第8回 共同研究「春日井コモンズ」研究会
『自己主張としての文学の役割』
(2010年1月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎76.第9回 共同研究「春日井コモンズ」研究会
『メディア技術は、どのような「コモンズ（共）」を出現させることができるか』
(2010年2月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎77.第10回 共同研究「春日井コモンズ」研究会
『個人識別に関わる情報処理技術』
(2010年10月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎78.第11回 共同研究「春日井コモンズ」研究会
『生命に目的はあるのか』

(2010 年 6 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎79.第 12 回 共同研究「春日井コモンズ」研究会

『美術はいま何をやろうとしているのかー感覚の彼方・物質の彼方・行為の彼方ー』

(2010 年 7 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎80.第 13 回 共同研究「春日井コモンズ」研究会

『歴史学の終焉ー制度的歴史学の崩壊によせてー』

(2010 年 7 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎81.記念シンポジウム 春日井コモンズ

『科学技術と個人』

(2010 年 11 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎82.第 1 回 共同研究「サステナビリティ研究会」

『持続可能な地域』

(2012 年 9 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎83.第 2 回 共同研究「サステナビリティ研究会」

『将来世代に優しい社会・環境をーエネルギー・環境問題を中心にー』

(2012 年 3 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎85.第 4 回 共同研究「サステナビリティ研究会」

『東アジアの目で見える「グレーター・ナゴヤ」の戦略』

(2013 年 3 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎89.第 8 回 共同研究「サステナビリティ研究会」

『都市の再生と河川ー持続可能な発展をめざしてー』

(2013 年 3 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎90.第 9 回 共同研究「サステナビリティ研究会」

『地方政治は持続社会に貢献できるか？ー犬山から飛騨へ、私の提言ー』

(2014 年 9 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎91.第 10 回 共同研究「サステナビリティ研究会」

『近代と未来のはざままで - 未来観の変遷と 21 世紀の課題』

(2014 年 3 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎92.第 11 回 共同研究「サステナビリティ研究会」

『エコロジー、インダストリー、アートの観点から生物多様性に配慮したグランド
(地)・デザイン〜生物多様保全という名のトポフォリア (場所愛)』

(2014 年 3 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎93.第 1 回 共同研究「寿命研究会」

『無限か再生かー寿命をめぐる』

(2014 年 7 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎94.第 2 回 共同研究「寿命研究会」

- 『無限か再生かー17ー18 世紀における地球と人間の運命』
(2014 年 10 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎95.第 3 回 共同研究「寿命研究会」
『無限か再生かー老年期の進化と人間社会の未来』
(2014 年 12 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎96.第 4 回 共同研究「寿命研究会」
『無限か再生かー幸せと寿命ー現代幸福学入門』
(2015 年 2 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎97.第 5 回 共同研究「寿命研究会」
『無限か再生かー時間次元の認知と寿命』
(2015 年 5 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎98.第 5 回 共同研究「寿命研究会」
『無限か再生かー時間次元の認知と寿命』
(2015 年 7 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎99.第 1 回 共同研究「サステナブル流域水研究会」
『東海地方における陸水の窒素循環・汚染の現状と課題』
(2016 年 3 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎100.第 2 回 共同研究「サステナブル流域水研究会」
『流域再生を目指した自然共生型環境管理と水の質的改善』
(2016 年 3 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎101.第 3 回 共同研究「サステナブル流域水研究会」
『都市・土地利用のデザインと水環境』
(2017 年 3 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎102.第 4 回 共同研究「サステナブル流域水研究会」
『藤前干潟保全の歴史と現況を学ぶ』
(2017 年 3 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎103..第 5 回 共同研究「サステナブル流域水研究会」
『総合型地圏水環境シュミレーション技術が描き出す流域水循環の動態』
(2017 年 1 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎104.第 1 回 共同研究「人文学の再構築」
『ルネサンス期科学の歴史的意味』
(2017 年 3 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎105.中部大学共同講義
『リーダーとしてのゴルバチョフ・今日のロシアとヨーロッパの理解の根底』
(2017 年 4 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎106.第 2 回 共同研究「人文学の再構築」

『啓蒙の世紀における人文知／再構成的学問から問題意識的学問への変化―歴史意識と人文科学』

(2019 年 3 月発行 中部高等学術研究所共同研究会)

◎107.第 3 回 共同研究「人文学の再構築」

『水田洋先生に訊く―戦争と私と社会科学』

(2019 年 3 月発行 中部高等学術研究所共同研究会)

◎108.第 4 回 共同研究「人文学の再構築」

『水田洋先生に訊くⅡ』

(2019 年 3 月発行 中部高等学術研究所共同研究)

◎109.第 1 回「日本のエネルギー政策を考える」研究会

『エネルギー問題を俯瞰する』

(2019 年 3 月発行 中部高等学術研究所共同研究)

◎110.第 5 回 共同研究「人文学の再構築」

『礼拝の自由』が切り開いた学問の新たな地平―知られざるナポレオンの功績

(2020 年 3 月発行 中部高等学術研究所共同研究)

◎111.第 6 回 共同研究「人文学の再構築」

『人文学の再構築に向けて』

(2020 年 3 月発行 中部高等学術研究所共同研究)

◎112.第 7 回 共同研究「人文学の再構築」

『人新世のかなたより―技術の射程、人間性のゆくえ』

(2022 年 2 月発行 中部高等学術研究所共同研究)

◎114.第 9 回 共同研究「人文学の再構築」

『社会改革思想と優生学思想の親和性―19 世紀末からナチス時代へ』

(2022 年 1 月発行 中部高等学術研究所共同研究)

◎115.第 10 回 共同研究「人文学の再構築」

『環境経済学の方法論と課題』

(2021 年 12 月発行 中部高等学術研究所共同研究)

◎116.第 11 回 共同研究「人文学の再構築」

『"理解社会学"という挑戦 ― 世紀転換期の社会科学の迷走から考える』

(2023 年 3 月発行 中部高等学術研究所共同研究)

◎117.第 12 回 共同研究「人文学の再構築」

『スピリチュアリティ・家族・『母』』

(2023 年 3 月発行 中部高等学術研究所共同研究)

◎118.第 13 回 共同研究「人文学の再構築」

『中東の諸紛争の起源について：植民地支配・冷戦構造の遺恨から考える』

(2023 年 3 月発行 中部高等学術研究所共同研究)

◎119.第 14 回 共同研究「人文学の再構築」

『チャールズ・テイラーの複合的近代化論の今日的意味—『世俗の時代』を読解する』

(2023 年 3 月発行 中部高等学術研究所共同研究)

◎120.第 15 回 共同研究「人文学の再構築」

『鏡・写真・数値—「私」を制定するイメージと人文学』

『文学研究の過去と現在—フランス（語圏）文学を中心にして』

(2024 年 3 月発行 中部高等学術研究所共同研究)

◎121.第 16 回 共同研究「人文学の再構築」

『新しい博物学へのお誘い—理系知と人間知の融合』

(2025 年 3 月発行 中部高等学術研究所共同研究)

◎122.第 17 回 共同研究「人文学の再構築」

最終シンポジウム『人文学における近代』

『第 1 部 水田洋と人文学』

『第 2 部 ドイツとフランスにおける人文学の再構築』

(2025 年 3 月発行 中部高等学術研究所共同研究)

3) 報告書

◎高山市 SDG シンポジウム

高山市の未来を築くこれからのパートナーシップ

(2021 年 3 月発行 中部大学国際 ESD・SDGs センター)

◎文部科学省 全国共同利用・共同研究拠点

「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」平成 26 年度成果報告

(2016 年 3 月発行)

◎文部科学省 共同利用・共同研究拠点

「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」 紀要 平成 27 年度
成果報告 (2017 年 3 月発行)

◎中部大学 国際 GIS センター 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 成果報告

IDEAS Joint Usage/Joint Research Report 2017

(2018 年 3 月発行)

◎中部大学 国際 GIS センター 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 成果報告

IDEAS Joint Usage/Joint Research Report 2018

(2019 年 3 月発行)

◎中部大学 国際 GIS センター 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 成果報告

IDEAS Joint Usage/Joint Research Report 2019

(2020 年 2 月発行)

◎中部大学 国際 GIS センター 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 成果報告

IDEAS Joint Usage/Joint Research Report 2020

(2021 年 3 月発行)

◎中部大学 国際 GIS センター 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 成果報告

IDEAS Joint Usage/Joint Research Report 2021

(2022 年 3 月発行)

◎中部大学 国際 GIS センター 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 成果報告

IDEAS Joint Usage/Joint Research Report 2022

(2023 年 2 月発行)

◎中部大学 国際 GIS センター 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 成果報告

IDEAS Joint Usage/Joint Research Report 2023

(2024 年 2 月発行)

◎中部大学 国際 GIS センター 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 成果報告

IDEAS Joint Usage/Joint Research Report 2024

(2024 年 8 月発行)

◎中部大学 国際 GIS センター 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 成果報告

IDEAS Joint Usage/Joint Research Report 2025

(2025 年 8 月発行)

1. 3. 研究所情報（所在地、組織体系）

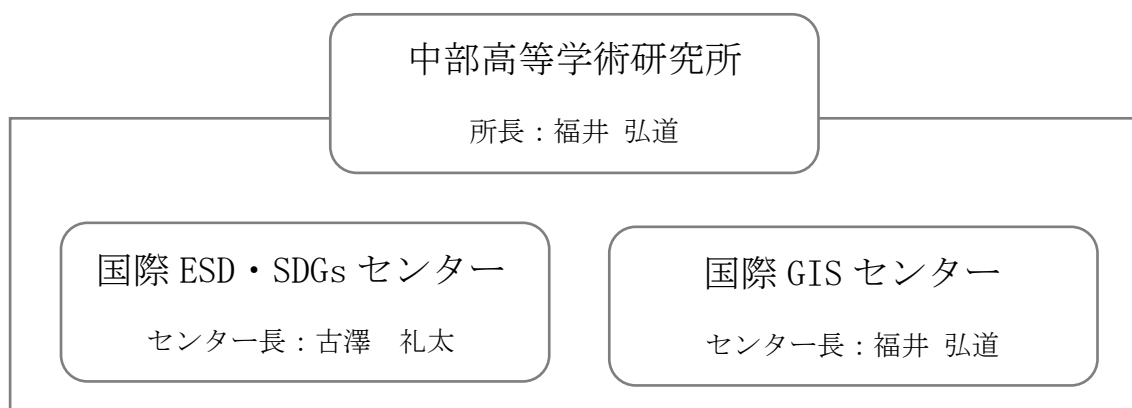
（1）所在地等

所在地：〒487-8501 愛知県春日井市松本町 1200

設立年月日：1996 年 4 月 1 日

所長：福井 弘道（中部高等学術研究所教授/国際 GIS センター長）

（2）組織体系



（3）HP

<https://www.chubu.ac.jp/research/institute/advanced-studies/>

1. 4. 所員（2025年度）

◎ 所員教員

福井 弘道	中部高等学術研究所 所長／国際 GIS センター長
渡部 展也	中部高等学術研究所 教授
竹島 喜芳	中部高等学術研究所 教授
古澤 礼太	中部高等学術研究所 教授／国際 ESD・SDGs センター長
杉田 暁	中部高等学術研究所 准教授
原 理史	中部高等学術研究所 非常勤研究員

◎ 所員教員（兼任）

山羽 基	教授（工学部建築学科）
玉田 敦子	教授（人文学部）

◎ 客員教授

松本 省吾	（名古屋大学名誉教授）
松田 一希	（京都大学野生動物研究センター）

◎ フェロー

石田 芳弘	（元犬山市長、元衆議院議員）
岩本 渉	（元国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター所長）
嘉田 由紀子	（参議院議員、元日本環境社会学会会長）
宗宮 弘明	（元中部大学学園顧問）
高須 幸雄	（国際連合事務総長特別顧問（元国連事務次長）

2. 所員（専任）の研究教育活動

※（単）は「単著」「単演」、（共）は「共著」「共演」を示す

(1) 福井 弘道

A. 公刊論文等

[論文(査読有り)]

- 1) Matsuura Takahide, Sato Yoshihiro, Sugita Satoru, Fukui Hiromichi
“Application and Challenges of AI-Based Ordinary Building Interpretation in the Noto Peninsula” Journal of the Japan society of photogrammetry and remote sensing, Volume 65, Issue 1, pp.28-38, 10 March 2026,
<https://doi.org/10.4287/jsprs.65.28> (共)

[論文、記事(査読無し)]

- 1) Satoru Sugita, Hiromichi Fukui “International Digital Earth Applied Science Research Center (IDEAS), Chubu University” Theory and Applications of GIS, Volume 33, Issue 3, 3pages, 24 December 2025,
<https://doi.org/10.5638/thagis.33.si-71> (共)
- 2) 佐藤将、川添達朗、福井弘道、安本晋也「デジタルアースで創る持続可能な里地山一地域課題の解決と生態系の保全」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp.15-19、2025 年 8 月 (共)
- 3) 大谷洋介、鹿野祐介、福井弘道、杉田暁「デジタルアース技術を活用した山岳景勝地における野生動物保全と観光の併存」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp.21-25、2025 年 8 月 (共)
- 4) 中村秀規、Wei-Lin Chen、上野ふき、杉田暁、福井弘道「オンライン SDGs 日台市民対話—生態系保全と市民の役割」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp.43-58、2025 年 8 月 (共)
- 5) 岩佐佳哉、濱侃、中田高、杉田暁、熊原康博、福井弘道「自然災害発生地域における簡易 LiDAR と CLAS を用いたデジタルマッピングとその利活用」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp.59-64、2025 年 8 月 (共)
- 6) 井上公、杉田暁、中田高、福井弘道、井筒潤「デジタル急峻地形」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp.161-164、2025 年 8 月 (共)
- 7) 中田高、後藤秀昭、福井弘道、井筒潤、杉田暁「アジアの活断層図のデジタルアースへの投入と利用サービスの向上：AW3D30 DSM を用いた世界全域のアナグリフ画像の作成とデジタルアースへの投入」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp.165-170、2025 年 8 月 (共)
- 8) 田開寛太郎、伊藤恭彦、原理史、松村顕司、福井弘道、杉田暁「ローカル SDGs 指標に基づく施策議論プログラムの ESD 活用研究」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp.201-213、2025 年 8 月 (共)

- 9) 水木千春、古澤礼太、安部大樹、朴恵淑、福井弘道「流域圏 SDGs 評価モデルの構築に関する研究 ―流域圏における水問題関連活動の可視化を中心に―」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 215-225、2025 年 8 月（共）

C. 学会発表

[招待講演]

- 1) Hiromichi Fukui「Digital Earth Technology for Sustainable Development Goals -Towards Social Implementation of Digital Earth」2025 World Science and Technology Development forum(2025 WSTDF), 28 October 2025, China Hall for Science and Technology, Beijing, China(単)
- 2) 福井弘道「デジタルアースの新展開～高解像度画像と地理空間 AI 基盤モデルによる高精度マッピング～」G 空間セミナー2025 in GIFU、2025 年 10 月 17 日、オンライン開催（単）
- 3) 福井弘道「藤前干潟から流域・地域循環共生圏へ ― 人と自然のウェルビーイング」第 5 回（名古屋大会）日本環境教育学会 中部支部、2025 年 6 月 21 日、稲永ビジターセンター、名古屋市（単）
- 4) 福井弘道「Global Citizen Forum on Water and Watersheds for All Lives (GCF-WW4AL) Background and Objectives -Towards the Regional Circular and Ecological Sphere」いのちをつなぐ水と流域・地球市民フォーラム in EXPO 2025、2025 年 5 月 6 日、大阪・関西万博会場（夢洲）、大阪府大阪市（単）
- 5) Hiromichi Fukui“Utilization of Digital Earth platform for National Spatial Planning -Towards the Regional Circular and Ecological Sphere” 14th International Symposium on Digital Earth, 22 April 2025, Chongqing Yuelai International Convention Center, Chongqing, China（単）

[国際会議]

- 1) OTANI, Y., TSUCHIHASHI, A., SUGITA, S., FUKUI, H., MATSUMOTO, T. “Assessing Potential Encounter Risk between Park Visitors and Wild Japanese Macaques (*Macaca fuscata*) in Kamikochi, Japan” The 30th Congress of the International Primatological Society, 22 July 2025, Novotel Convention, Antananarivo, Madagascar（共）
- 2) Nakamura Hidenori; Chen, Wei-Lin; Rask, Mikko; Ueno, Fuki; Sugita Satoru; Fukui Hiromichi “Citizen Dialogue and Digital Earth: Capacity building and innovation for quality collective decision-making process of sustainability transformation” 14th International Symposium on Digital Earth, Better Earth 1, 23 April 2025, Room 203A Chongqing Yuelai International Convention Center, Chongqing, China（共）

[国内会議]

- 1) 中田高、後藤秀昭、熊原康博、福井弘道、井筒潤、杉田暁「全球地形判読のための AW3D30 アナグリフ画像の活用と普及」2026 年日本地理学会春季学術大会、P031、2026 年 3 月 26 日-27 日、法政大学 市ヶ谷キャンパス、東京都千代田区（共）

- 2) 水木千春、古澤礼太、安部大樹、朴恵淑、福井弘道「流域圏 SDGs 評価モデルの構築に関する研究：持続可能な流域圏のデザインに向けた指標の活用」いのちをつなぐ水と流域・地球市民フォーラム 2026 in Aichi、ポスター発表、2026 年 2 月 28 日、愛・地球博記念公園地球市民交流センター、長久手市（共）
- 3) 水木千春、古澤礼太、安部大樹、朴恵淑、福井弘道「流域圏 SDGs 評価モデルの構築に関する研究ー持続可能な流域圏のデザインに向けた指標活用の検討ー」2025 年度中部大学国際 GIS センター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026 年 2 月 9 日、中部大学、春日井市（共）
- 4) 井上公、杉田暁、井筒潤、福井弘道「デジタル急峻地形」2025 年度中部大学国際 GIS センター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026 年 2 月 9 日、中部大学、春日井市（共）
- 5) 中田高、後藤秀昭、福井弘道、井筒潤、杉田暁「アジアの活断層図のデジタルアースへの投入と利用サービスの向上」2025 年度中部大学国際 GIS センター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026 年 2 月 9 日、中部大学、春日井市（共）
- 6) Man Duc Chuc, Satoru Sugita, Hiromichi Fukui “Big Data and AI Driven Vision-Language Change Detection for Sustainable Earth Monitoring” 2025 年度中部大学国際 GIS センター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026 年 2 月 9 日、中部大学、春日井市（共）
- 7) 上野ふき、宮野公樹、中村秀規、平理一郎、久木田水生、村上祐子、林能成、東原紘道、熊澤峰夫、井出和希、後藤忠徳、鈴木秀憲、杉田暁、福井弘道「マインドクライメートの必須観測変数の抽出」2025 年度中部大学国際 GIS センター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026 年 2 月 9 日、中部大学、春日井市（共）
- 8) 大谷洋介、鹿野祐介、杉田暁、松本卓也、福井弘道「デジタルアース技術を活用した山岳景勝地における野生動物保全と観光の併存」2025 年度中部大学国際 GIS センター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026 年 2 月 9 日、中部大学、春日井市（共）
- 9) 福井弘道「拠点の今年度活動概要説明」2025 年度中部大学国際 GIS センター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026 年 2 月 9 日、中部大学、春日井市（単）
- 10) 福井弘道「愛知県の宇宙産学官エコシステムを開発途上国へ展開するには？」TechGALA2026、NS-8、2026 年 1 月 28 日、日本経済新聞社 名古屋支社 NS Stage、名古屋市（単）
- 11) 福井弘道「2024 年度共同研究概要 2-3: SDGs 指標に関する情報のデジタルアースへの投入と利用サービス」第 34 回地理情報システム学会学術研究発表大会、企画セッション「デジタルアース研究の現状と将来展望（2025）」、2025 年 11 月 2 日、富山大学五福キャンパス、富山県富山市（単）
- 12) 福井弘道「2024 年度共同研究概要 1-3: サイエンス・コミュニケーション・システム開発」第 34 回地理情報システム学会学術研究発表大会、企画セッション「デジタルアース研究の現状と将来展望（2025）」、2025 年 11 月 2 日、富山大学

五福キャンパス、富山県富山市（単）

- 13) 福井弘道「愛知万博 20 年：過去，現在，未来 - 人と自然・地球のウェルビーイングを目指して」公開シンポジウム「愛知万博 20 年：過去，現在，未来」、2025 年 9 月 5 日、名古屋大学 IB 電子情報館 中棟の 2F の大講義室、名古屋市（単）
- 14) 大谷洋介、土橋彩加、福井弘道、杉田暁、松本卓也「上高地におけるニホンザル (*Macaca fuscata*) と公園利用者の潜在的遭遇リスク評価」日本霊長類学会第 41 回大会、A3-01、2025 年 7 月 13 日、早稲田大学早稲田キャンパス、東京都新宿区（共）
- 15) 福井弘道「デジタルアースで考える人と地球のウェルビーイング」愛・知・みらいフォーラム第 18 回通常総会（卓話）、2025 年 5 月 10 日、アイリス愛知、名古屋市（単）
- 16) 福井弘道「持続可能な地球の未来を設計する社会・生態システムズアプローチの挑戦：趣旨説明」中部高等学術研究所設立 30 周年記念に向けたプレ講演会、デジタルアース共同利用・共同研究拠点連続シンポジウム、第 34 回中部大学 ESD・SDGs シンポジウム、2025 年 5 月 7 日、中部大学、春日井市（単）

(2) 渡部 展也

A. 公刊論文等

[論文、記事(査読無し)]

- 1) 瀬尾幸斗、鷹野孝典、渡部展也、Kin Fun Li「自然環境観測画像を対象とした異種潜在空間における画像特徴ベクトル間距離の算出手法」情報処理学会 第 181 回データベースシステム研究会 (SIG-DBS) 研究報告、2025-IFAT-160 巻、64 号、PP.1-5、2025 年 9 月 9 日、ISSN-2188-8884（共）
- 2) 鷹野孝典、瀬尾幸斗、渡部展也「震災・原発事故後の福島におけるレジリエンスのためのジオデザイン」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 37-40、2025 年 8 月（共）
- 3) 茨木瞬、成川旦人、渡部展也「震災・原発事故後の福島におけるレジリエンスのためのジオデザイン」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 251-255、2025 年 8 月（共）

B. 図書

- 1) Nobuya Watanabe “Chapter 9 An Interdisciplinary Multi-method Computational Spatial Analysis: Clarifying the Formation of the Neolithic Period in China” Kikusawa Ritsuko, Okamoto Susumu, and Suzuki Hiroyuki eds., Establishing Spatiotemporal Linguistics: Toward an Interdisciplinary Approach to the History of Language and of Human Movement (NIHU Studies in the Humanities, Volume: 02), pp.183-291, Brill, 17 March 2026, ISSN: 3050-8126（共）
- 2) Kikusawa Ritsuko and Watanabe Nobuya “Chapter 16 Towards the Future:

Making a Map Based Language Database and Its Future Potentials” Kikusawa Ritsuko, Okamoto Susumu, and Suzuki Hiroyuki eds., Establishing Spatiotemporal Linguistics: Toward an Interdisciplinary Approach to the History of Language and of Human Movement (NIHU Studies in the Humanities, Volume: 02), pp.288-308, Brill, 17 March 2026, ISSN: 3050-8126 (共)

- 3) 中村慎一、渡部展也、小林正史、菊澤律子、大川裕子、村松弘一 編『『アジア遊学 空間と環境の古代東アジア世界史 GIS と歴史学・考古学の協奏』勉誠出版、2025 年 9 月、ISBN : 978-4-585-32553-6 (共)

C. 学会発表

【国際会議】

- 1) 渡部展也「試論:GISから考える「考古学的文化」の空間的動態(Preliminary study: Considering the spatial dynamics of “archaeological culture” by utilizing GIS)」中国文明与丝绸之路 中日合作“中国文明起源解明的新考古科学战略项目”研讨会、2025 年 9 月 25 日、蘭州大学、蘭州、中国 (単)

【国内会議】

- 1) 渡部展也「災害リスクがサプライチェーンに与えるインパクトを評価する物流・人流クラウドサービスの試案」第 4 回物流リモートセンシング研究会、2026 年 2 月 16 日、東北大学青葉山キャンパス、宮城県仙台市 (単)
- 2) 鷹野孝典、瀬尾幸斗、渡部展也「センサーデータ検索・分析・予測のための深層学習モデルを用いた特徴量データベースの構築」2025 年度中部大学国際 GIS センター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026 年 2 月 9 日、中部大学、春日井市 (共)
- 3) 渡部展也「Leveraging Spatial Information to Enrich the Artifact Inventory」文化庁委託業務「シリア・アラブ共和国との文化遺産国際協力拠点交流事業」学術集会：シリアの歴史と文化財を考える、2025 年 11 月 29 日、筑波大学東京キャンパス 134 講義室・320 教室、東京都文京区 (単)
- 4) 渡部展也「2024 年度共同研究概要 1-2: 基盤データ構築および分析・不確実性可視化手法 (3 次元データ、時系列データ)」第 34 回地理情報システム学会学術研究発表大会、企画セッション「デジタルアース研究の現状と将来展望 (2025)」、2025 年 11 月 2 日、富山大学五福キャンパス、富山県富山市 (単)
- 5) 渡部展也「石峁遺跡を訪ねて 石峁遺跡の基本的情報と現地調査紹介」日本中国考古学会中部部会 (第 13 回)・研究報告会、2025 年 10 月 3 日、南山大学、名古屋市 (単)
- 6) 瀬尾幸斗、鷹野孝典、渡部展也、Kin Fun Li「自然環境観測画像を対象とした異種潜在空間における画像特徴ベクトル間距離の算出手法」第 181 回データベースとデータサイエンス・第 160 回情報基礎とアクセス技術合同研究発表会、10C : (64) DBS、2025 年 9 月 18 日、アクトシティ浜松コンgresセンター、静岡県浜松市 (共)

(3)竹島喜芳

A. 公刊論文等

[論文、記事 (査読無し)]

- 1) 米澤千夏、村田裕樹、鈴木はるか、成澤朋紀、竹島喜芳「問題複合体としての沿岸域の環境変化のリモートセンシングによるモニタリング」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 179-184、2025 年 8 月 (共)
- 2) 安室喜弘、尾崎平、窪田諭、竹島喜芳「多様な天候下における広域暑熱リスクの可視化」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 185-191、2025 年 8 月 (共)
- 3) 錦澤滋雄、横山祥汰、長澤康弘、村山武彦、張偉、竹島喜芳「再生可能エネルギーの地域受容性に及ぼす要因に関する研究」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 193-198、2025 年 8 月 (共)
- 4) 林希一郎、Sun Zixin、町村尚、竹島喜芳「リモートセンシングデータを活用した森林の年齢と森林情報に関する研究」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 271-273、2025 年 8 月 (共)
- 5) Kaiqi Liu, Shigeo Nishikizawa, Takehiko Murayama, Kultip Suwanteep , Kiyoshi Takejima 「Integrating Social Acceptance into MCDM for Onshore Wind Farm Suitability Analysis」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 277-285、2025 年 8 月 (共)
- 6) Wei Zhang, Shigeo Nishikizawa, Takehiko Murayama, Kultip Suwanteep , Kiyoshi Takejima 「Community response to wind power projects in Japan」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 287-293、2025 年 8 月 (共)

C. 学会発表

[国内会議]

- 1) 成澤朋紀、米澤千夏、竹島喜芳「機械学習を用いたリモートセンシング画像からの東北地方太平洋沿岸のタブノキの分布推定」2025 年度中部大学国際 GIS センター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026 年 2 月 10 日、中部大学、春日井市 (共)
- 2) 渥美聡孝、南基泰、竹島芳喜「GIS を用いた薬用植物オオツヅラフジの持続可能な利用のための潜在分布域評価」2025 年度中部大学国際 GIS センター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026 年 2 月 10 日、中部大学、春日井市 (共)
- 3) 米澤千夏、鈴木はるか、村田裕樹、成澤朋紀、竹島喜芳「リモートセンシングと潜水による三陸海岸南部の藻場のモニタリング」2025 年度中部大学国際 GIS センター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026 年 2 月 10 日、中部大学、春日井市 (共)

- 4) 安室喜弘、尾崎平、窪田諭、竹島喜芳「多様な地域と天候下における広域暑熱リスクの可視化サービスシステムの構築」2025 年度中部大学国際 GIS センター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026 年 2 月 9 日、中部大学、春日井市（共）
- 5) 林希一郎、Sun Zixin、町村尚、竹島喜芳「リモートセンシングデータを活用した森林の年齢と森林情報に関する研究」2025 年度中部大学国際 GIS センター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026 年 2 月 9 日、中部大学、春日井市（共）
- 6) 祖父江侑紀、竹島喜芳、米澤千夏、村田裕樹、村松加奈子「RGB 画像を利用したスギ・ヒノキ判別手法の検討」(社)日本リモートセンシング学会第 79 回(令和 7 年度秋季)学術講演会、2025 年 11 月 26 日、高知市文化プラザかるぽーと、高知県高知市（共）
- 7) 竹島喜芳「2024 年度共同研究概要 2-2: 環境、エネルギー情報のデジタルアースへの投入と利用サービス」第 34 回地理情報システム学会学術研究発表大会、企画セッション「デジタルアース研究の現状と将来展望 (2025)」、2025 年 11 月 2 日、富山大学五福キャンパス、富山県富山市（単）

(4)古澤 礼太

A. 公刊論文等

[論文（査読有り）]

- 1) 原理史、古澤礼太、水上聡子、堺勇人「地域循環共生圏の活動を評価する枠組みの検討」環境共生、42 巻、1 号、pp.65-72、2026 年 3 月、https://doi.org/10.32313/jahes.42.1_65（共）

[論文、記事（査読無し）]

- 1) 水木千春、古澤礼太、安部大樹、朴恵淑、福井弘道「流域圏 SDGs 評価モデルの構築に関する研究 ―流域圏における水問題関連活動の可視化を中心に―」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 215-225、2025 年 8 月（共）

[会議抄録]

- 1) 原理史、古澤礼太、水上聡子、堺勇人「地域循環共生圏の活動を評価する枠組みの検討」日本環境共生学会第 28 回(2025 年度)学術大会発表論文集、pp. 30-31、2025 年 9 月（共）

C. 学会発表/講演

[国内会議]

- 1) 古澤礼太、安部大樹、中島稜太「中部 ESD 拠点 (RCE 中部) の流域圏 ESD に関する取組：流域圏 SDGs 評価モデルの構築に関する研究を中心に」第 8 回 ESD 実践研究集会：交差する知と実践～ユース・実践者・研究者が描く ESD のこれから～、ポスター発表、2026 年 3 月 20 日、神戸大学鶴甲第二キャンパス、兵庫県神戸市（共）

- 2) 水木千春、古澤礼太、安部大樹、朴恵淑、福井弘道「流域圏 SDGs 評価モデルの構築に関する研究：持続可能な流域圏のデザインに向けた指標の活用」いのちをつなぐ水と流域・地球市民フォーラム 2026 in Aichi、ポスター発表、2026 年 2 月 28 日、愛・地球博記念公園地球市民交流センター、長久手市（共）
- 3) 水木千春、古澤礼太、安部大樹、朴恵淑、福井弘道「流域圏 SDGs 評価モデルの構築に関する研究－持続可能な流域圏のデザインに向けた指標活用の検討－」2025 年度中部大学国際 GIS センター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026 年 2 月 9 日、中部大学、春日井市（共）
- 4) 古澤礼太「流域圏文明の創造をめざして：「いのちをつなぐ水と流域・地球市民フォーラム」の実践と展望」第 28 回イベント学会研究大会、2025 年 11 月 8 日、目白大学、東京都新宿区（単）
- 5) 原理史、古澤礼太、水上聡子、堺勇人「地域循環共生圏の活動を評価する枠組みの検討」日本環境共生学会第 28 回(2025 年度)日本環境共生学会学術大会、20A22、2025 年 9 月 20 日、拓殖大学八王子国際キャンパス、東京都八王子市（共）

（５）杉田暁

A. 公刊論文等

〔論文（査読有り）〕

- 1) Matsuura Takahide, Sato Yoshihiro, Sugita Satoru, Fukui Hiromichi “Application and Challenges of AI-Based Ordinary Building Interpretation in the Noto Peninsula” Journal of the Japan society of photogrammetry and remote sensing, Volume 65, Issue 1, pp.28-38, 10 March 2026, <https://doi.org/10.4287/jsprs.65.28>（共）
- 2) Yu, B., Iizuka, K., Akiyama, Y., Oguchi, T. and Sugita, S. “Low-Light Enhancement on Nighttime Unmanned Aerial Vehicle (UAV) Imagery for Surveying Vacant Houses” Remote Sensing Applications: Society and Environment, 41, 101931, 15pages, 19 February 2026, <https://doi.org/10.1016/j.rsase.2026.101931>（共）
- 3) Iwasa Yoshiya, Hama Akira, Sugita Satoru, Malatesta Luca C., Ishimura Daisuke, Nakata Takashi “Investigating Topographic Changes Associated with the 2024 Noto Peninsula Earthquake Using Affordable CLAS-GNSS and Hand-held Laser Scanner, and Verifying Their Effectiveness” Journal of Geography, Volume 134, Issue 5, pp. 527-537, 25 October 2025, <https://doi.org/10.5026/jgeography.134.527>（共）
- 4) Akira Hama, Satoru Satoru, Yoshiya Iwasa, Takashi Nakata “Records of Co-seismic Uplift and Tsunami Inundation Associated with the 2024 Noto Peninsula Earthquake using Advanced Surveying Technology” E-journal GEO, Volume 20, Issue 1, pp.80-91, 23 July 2025, <https://doi.org/10.4157/ejgeo.20.80>（共）
- 5) Nakamura, Hidenori; Chen, Wei-Lin; Ueno, Fuki and Sugita, Satoru “Online citizen dialogue on biodiversity conservation and citizen participation:

A cross-cultural deliberation between Taiwan and Japan ” Ambio, Volume 54, pp.2170-2189, (2025), 9 July 2025, DOI: 10.1007/s13280-025-02209-6 (共)

- 6) Iwasa Yoshiya, Nakata Takashi, Kumahara Yasuhiro, Sugita Satoru, Hama Akira, Aoki Tatsuto “Distribution of tsunami inundation area and tsunami height associated with the 2024 Noto Peninsula earthquake, central Japan” Earth, Planets and Space, Volume 77, article number 105 (2025), 13 pages, 2 July 2025, <https://doi.org/10.1186/s40623-025-02202-z> (共)

[論文、記事(査読無し)]

- 1) Chun-Chen Chou, Yui Onishi, Miyu Matsuoka, Masanobu Kii, Satoru Sugita “Passenger Flow and Dwell Behavior Analysis in Station Plazas Using Vision-Based Deep Learning” 2026 IEEE 2nd International Conference on Consumer Technology, pp. 376-379, 28-30 March 2026, <https://doi.org/10.1109/ICCT-Pacific69083.2026.11518695> (共)
- 2) Satoru Sugita, Hiromichi Fukui “International Digital Earth Applied Science Research Center (IDEAS), Chubu University” Theory and Applications of GIS, Volume 33, Issue 3, 3pages, 24 December 2025, <https://doi.org/10.5638/thagis.33.si-71> (共)
- 3) 大谷洋介、鹿野祐介、福井弘道、杉田暁「デジタルアース技術を活用した山岳景勝地における野生動物保全と観光の併存」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 21-25、2025 年 8 月 (共)
- 4) 中村秀規、Wei-Lin Chen、上野ふき、杉田暁、福井弘道「オンライン SDGs 日台市民対話—生態系保全と市民の役割」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 43-58、2025 年 8 月 (共)
- 5) 岩佐佳哉、濱侃、中田高、杉田暁、熊原康博、福井弘道「自然災害発生地域における簡易 LiDAR と CLAS を用いたデジタルマッピングとその利活用」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 59-64、2025 年 8 月 (共)
- 6) 紀伊雅敦、杉田暁「時刻表情報を用いた公共交通によるアクセシビリティの時空間評価に関する研究」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 67-70、2025 年 8 月 (共)
- 7) 佐々木真、荒川弘之、山田琢磨、杉田暁「感染症パンデミックの時空間ダイナミクス解析」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 71-74、2025 年 8 月 (共)
- 8) Teerayut Horanont, Jirawan Klaylee, Lamichhane Badri Raj, Satoru Sugita 「Implementing Mobile Mapping Vehicles to Assess Street Objects and Quality of Life (SQoL) with Multi-Sensor Systems on a Smart Campus in Thailand」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 75-86、2025 年 8 月 (共)
- 9) 秋山祐樹、飯塚浩太郎、山内啓之、杉田暁「ドローン等で撮影した画像から生成したバーチャルリアリティ (VR) 空間を用いた空き家現地調査の負担低減に向け

た研究」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 87-104、2025 年 8 月（共）

- 10) 豊田有、松田一希、丸橋珠樹、杉田暁「デジタルアース技術を活用した野生ベニガオザル地域集団の保全：地域農業との持続可能な共存の探索」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 105-113、2025 年 8 月（共）
- 11) 小田真人、鴨谷知繁、杉田暁、小田一枝、布施智行、西谷友彬、辻智樹「気候変動適応に資する分散インフラの情報集積とそのオープンサイエンス活用モデルの形成」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 115-122、2025 年 8 月（共）
- 12) 赤見理恵、杉山茂、松田一希、杉田暁、星野智紀、奥川みらい「妙高笹ヶ峰におけるニホンザル分布拡大と環境変化モニタリングへのデジタルアースの活用」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 123-127、2025 年 8 月（共）
- 13) 中西航、杉田暁「多様なデータソースから得られる属性情報を統合した求心力のある飲食店の都心-郊外立地特性」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 129-134、2025 年 8 月（共）
- 14) 秋山千亜紀、秋山祐樹、杉田暁「我が国における住宅ストックに関する政府統計の DX フレンドリーなデータベースの整備」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 135-145、2025 年 8 月（共）
- 15) 山田琢磨、杉田暁、佐々木真、荒川弘之、稲垣滋「ドローンを用いた大気流速場の局所計測」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 147-150、2025 年 8 月（共）
- 16) 井上公、杉田暁、中田高、福井弘道、井筒潤「デジタル急峻地形」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 161-164、2025 年 8 月（共）
- 17) 中田高、後藤秀昭、福井弘道、井筒潤、杉田暁「アジアの活断層図のデジタルアースへの投入と利用サービスの向上：AW3D30 DSM を用いた世界全域のアナグリフ画像の作成とデジタルアースへの投入」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 165-170、2025 年 8 月（共）
- 18) 田開寛太郎、伊藤恭彦、原理史、松村顕司、福井弘道、杉田暁「ローカル SDGs 指標に基づく施策議論プログラムの ESD 活用研究」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 201-213、2025 年 8 月（共）
- 19) 市橋泰範、杉田暁、堤内要、藤吉弘亘「衛星ビッグデータを活用したブドウ葉巻病の病徴調査」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 237-241、2025 年 8 月（共）
- 20) 山崎達也、小野魁斗、杉田暁「災害時の指定公共機関からの局所避難情報提供によるレジリエント・シティの実現」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 247-250、2025 年 8 月（共）

- 21) 安納住子、木村佳嗣、杉田暁「公衆衛生分野におけるオープンソース・インテリジェンスの有効性の検証」問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点 2024 年度成果報告書、pp. 267-269、2025 年 8 月（共）

[会議抄録]

- 1) 秋山祐樹、飯塚浩太郎、山内啓之、杉田暁「ドローンで撮影した画像から生成したバーチャルリアリティ (VR) 空間を用いた空き家現地調査の負担低減に向けた技術開発」CSIS DAYS 2025 研究アブストラクト集、B05、1 頁、2025 年 11 月 14 日（共）

B. 図書

- 1) 田開寛太郎、杉田暁、原理史「高等学校「地理総合」GIS 単元教材パッケージ統計と地図を GIS で学ぶ 地域の課題を考えてみよう〈飯田市編〉Ver. 1.1」龍共印刷株式会社、2026 年 3 月（共）
- 2) 田開寛太郎、杉田暁、原理史「高等学校「地理総合」GIS 単元教材パッケージ統計と地図を GIS で学ぶ 地域の課題を考えてみよう〈飯田市編〉Ver. 1」龍共印刷株式会社、2025 年 7 月（共）

C. 学会発表

[国際会議]

- 1) Chun-Chen Chou, Yui Onishi, Miyu Matsuoka, Masanobu Kii, Satoru Sugita “Passenger Flow and Dwell Behavior Analysis in Station Plazas Using Vision-Based Deep Learning” 2026 IEEE 2nd International Conference on Consumer Technology, OS02-3 (3rd), 29 March 2026, Yamaguchi University, #Yoshida Campus, Yamaguchi, Japan（共）
- 2) Takashi Machimura, Satoru Sugita, Shiro Tsuyuzaki, Stefan Hotes “Microtopographic Change of a Peat Bog Surface Detected by Multitemporal Observations Using a UAV-boarded LiDAR” AGU(American Geophysical Union) 25, B33I-1996, 17 December 2025, Online（共）
- 3) Takashi Machimura, Haodong Zhang, Satoru Sugita, Shiro Tsuyuzaki, Hotes Stefan “Remotely sensed surface displacement and its analysis for monitoring peatland restoration” International Conference on Materials and Systems for Sustainability 2025, LC-2-01, 13 December 2025, Nagoya University Basque Centre for Climate Change (BC3), Nagoya, Aichi, Japan（共）
- 4) Aru TOYODA, Tamaki MARUHASHI, Tadanobu OKUMURA, Satoru SUGITA, Ikki MATSUDA, Suchinda MALAIVIJITNOND, Prateep DUENGKAE “Conservation Gains, Emerging Costs: Population Trajectories and Human-Macaque Conflict at Khao Krapuk-Khao Tao Mor Non-Hunting Area” Biodiversity and Wildlife 2025 “Advancing Synergy in Biodiversity and Wildlife: Ecology, Health, and

Human-Wildlife Conflicts” 6 December 2025, Kasetsart University, Bangkok, Thailand (共)

- 5) OTANI, Y., TSUCHIHASHI, A., SUGITA, S., FUKUI, H., MATSUMOTO, T. “Assessing Potential Encounter Risk between Park Visitors and Wild Japanese Macaques (*Macaca fuscata*) in Kamikochi, Japan” The 30th Congress of the International Primatological Society, 22 July 2025, Novotel Convention, Antananarivo, Madagascar (共)
- 6) Kiichiro Hayashi, Ferdinando Villa, Stefano Balbi, Hiromu Okazawa, Takashi Machimura, Yuri Yamazaki, Satoru Sugita, Phub Dem “Ecosystem Service Modelling with ARIES and k.LAB: Global Innovation and Local Applications in Japan” The 11th ESP World Conference, T4-4, 23-25 June 2025, Darwin Convention Center, Darwin, Australia (共)
- 7) Satoru Sugita, Akira Hama, Yoshiya Iwasa, Takashi Nakata, Yasuhiro Kumahara “Measurement of Crustal Deformation associated with the 2024 Noto Peninsula Earthquake using CLAS-PPP” 14th International Symposium on Digital Earth, 21-25 April 2025, Chongqing Yuelai International Convention Center, Chongqing, China (共)
- 8) Nakamura, Hidenori; Chen, Wei-Lin; Rask, Mikko; Ueno, Fuki; Sugita, Satoru; Fukui, Hiromichi “Citizen Dialogue and Digital Earth: Capacity building and innovation for quality collective decision-making process of sustainability transformation” 14th International Symposium on Digital Earth, Better Earth 1, 23 April 2025, Room 203A Chongqing Yuelai International Convention Center, Chongqing, China (共)

[国内会議]

- 1) 中田高、後藤秀昭、熊原康博、福井弘道、井筒潤、杉田暁「全球地形判読のためのAW3D30 アナグリフ画像の活用と普及」2026年日本地理学会春季学術大会、P031、2026年3月26日-27日、法政大学 市ヶ谷キャンパス、東京都千代田区 (共)
- 2) 町村尚、章浩東、杉田暁、露崎史朗、シュテファン・ホーテス、林希一郎「InSAR 観測による泥炭湿原表面高変動の地下水位応答とかく乱の影響」日本農業気象学会2026年全国大会、C08-01、2026年3月19日、筑波大学つくばキャンパス春日エリア 会場C、茨城県つくば市 (共)
- 3) 町村尚、杉田暁、露崎史朗、ホーテスシュテファン、小田明香、高岡春佳「近接リモートセンシングとモデルによる泥炭湿原劣化・再生のモニタリング」日本生態学会第73回全国大会、P2-023、2026年3月15日、国立京都国際会館、京都府京都市 (共)
- 4) 中村秀規、藤江遼、上野ふき、杉田暁「デジタルアース、市民対話、そして社会物理学：集合的意思決定にかかわる態度・能力変数の分布と変容」2025年度中部大学国際GISセンター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026年2月10日、中部大学、春日井市 (共)
- 5) 市橋泰範、杉田暁、堤内要、藤吉弘亘「衛星ビッグデータを活用したブドウ葉巻病の病徴調査」2025年度中部大学国際GISセンター問題複合体を対象とするデジ

タルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026年2月10日、中部大学、春日井市（共）

- 6) 山崎達也、杉田暁、小野魁斗「災害時の指定公共機関からの局所避難情報提供によるレジリエント・シティの実現」2025年度中部大学国際GISセンター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026年2月10日、中部大学、春日井市（共）佐々木真、荒川弘之、山田琢磨、杉田暁「感染症パンデミックの時空間ダイナミクス解析」2025年度中部大学国際GISセンター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026年2月10日、中部大学、春日井市（共）
- 6) 佐々木真、荒川弘之、山田琢磨、杉田暁「感染症パンデミックの時空間ダイナミクス解析」2025年度中部大学国際GISセンター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026年2月10日、中部大学、春日井市（共）
- 7) 秋山祐樹、飯塚浩太郎、山内啓之、杉田暁「人間の集合知を用いたバーチャルリアリティ（VR）空間における空き家現地調査の精度向上に向けた研究」2025年度中部大学国際GISセンター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026年2月10日、中部大学、春日井市（共）
- 8) 田開寛太郎、原理史、杉田暁「ローカルSDGs指標に基づく施策議論プログラムのESD活用研究」2025年度中部大学国際GISセンター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026年2月9日、中部大学、春日井市（共）
- 9) 井上公、杉田暁、井筒潤、福井弘道「デジタル急峻地形」2025年度中部大学国際GISセンター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026年2月9日、中部大学、春日井市（共）
- 10) 中田高、後藤秀昭、福井弘道、井筒潤、杉田暁「アジアの活断層図のデジタルアースへの投入と利用サービスの向上」2025年度中部大学国際GISセンター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026年2月9日、中部大学、春日井市（共）
- 11) 岩佐佳哉、中田高、熊原康博、濱侃、井筒潤、杉田暁「「未災地」におけるCLAS-GNSSおよびHand-held Laser Scannerを用いたデジタルマッピングとその利活用」2025年度中部大学国際GISセンター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026年2月9日、中部大学、春日井市（共）
- 12) 中西航、杉田暁「多様なデータソースから得られる属性情報を統合した求心力のある飲食店の都心-郊外立地特性」2025年度中部大学国際GISセンター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026年2月9日、中部大学、春日井市（共）
- 13) Man Duc Chuc, Satoru Sugita, Hiromichi Fukui “Big Data and AI Driven Vision-Language Change Detection for Sustainable Earth Monitoring” 2025年度中部大学国際GISセンター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026年2月9日、中部大学、春日井市（共）
- 14) 赤見理恵、杉山茂、松田一希、杉田暁、星野智紀、川原宇翔「妙高笹ヶ峰におけ

るニホンザル分布拡大と環境変化モニタリングへのデジタルアースの活用」2025年度中部大学国際 GIS センター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026年2月9日、中部大学、春日井市（共）

- 15) 山田琢磨、荒川弘之、佐々木真、杉田暁、稲垣滋「ドローンを用いた大気流速場の局所計測」2025年度中部大学国際 GIS センター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026年2月9日、中部大学、春日井市（共）
- 16) 櫻木雄太、金紗羅、Rosing-Asvid Aqqalu、Yefan Wangc、杉田 暁「グリーンランド北西部のカービング氷河末端におけるアザラシを用いた海洋環境の時空間動態の可視化」2025年度中部大学国際 GIS センター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026年2月9日、中部大学、春日井市（共）
- 17) 豊田有、松田一希、杉田暁「デジタルアース技術を活用した野生ベニガオザル地域集団の保全：地域農業との持続可能な共存の探索」2025年度中部大学国際 GIS センター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026年2月9日、中部大学、春日井市（共）
- 18) 紀伊雅敦、杉田暁、周純甄、松岡実優、大西優衣「都市 Void の計測と評価：デジタルアース技術と行動評価の融合」2025年度中部大学国際 GIS センター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026年2月9日、中部大学、春日井市（共）
- 19) 上野ふき、宮野公樹、中村秀規、平理一郎、久木田水生、村上祐子、林能成、東原紘道、熊澤峰夫、井出和希、後藤忠徳、鈴木秀憲、杉田暁、福井弘道「マインドクライメートの必須観測変数の抽出」2025年度中部大学国際 GIS センター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026年2月9日、中部大学、春日井市（共）
- 20) 大谷洋介、鹿野祐介、杉田暁、松本卓也、福井弘道「デジタルアース技術を活用した山岳景勝地における野生動物保全と観光の併存」2025年度中部大学国際 GIS センター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点成果報告会、2026年2月9日、中部大学、春日井市（共）
- 21) 豊田有、奥村忠誠、杉田暁、松田一希「タイのベニガオザルを対象にした取り組み事例」第30回「野生動物と社会」学会大会（早稲田大会）、TS08-01、2025年12月21日、早稲田大学国際会議場 会議室 1、東京都新宿区（共）
- 22) 秋山祐樹、飯塚浩太郎、山内啓之、杉田暁「ドローンで撮影した画像から生成したバーチャルリアリティ（VR）空間を用いた空き家現地調査の負担低減に向けた技術開発」CSIS DAYS 2025、B05、2025年11月14日、東京大学柏キャンパス、千葉県柏市（共）
- 23) 杉田暁「2024年度共同研究概要 1-4: ビッグデータ解析のデジタルアースへの応用」第34回地理情報システム学会学術研究発表大会、企画セッション「デジタルアース研究の現状と将来展望（2025）」、2025年11月2日、富山大学五福キャンパス、富山県富山市（単）
- 24) 杉田暁、濱侃、岩佐佳哉、中田高、熊原康博「CLAS-PPPを用いた令和6年能登半

島地震に伴う地殻変動の経時変化の計測」第 34 回地理情報システム学会学術研究発表大会、P1-48、2025 年 11 月 1 日、富山大学五福キャンパス、富山県富山市（共）

- 25) 山下大輝、杉田暁、安納住子「Few-Shot Learning と航空写真を用いた地震発生時の瓦礫化判別モデルの開発」P1-43、2025 年 11 月 1 日、富山大学五福キャンパス、富山県富山市（共）
- 26) 原理史、田開寛太郎、杉田暁、松村顕司「GIS を活用した地理総合授業における ESD 実践-「ミステリーワークショップ」を組み込んだ普通科高校での授業研究-」一般社団法人日本環境教育学会 第 36 回年次大会、36C14、2025 年 10 月 12 日、北海道教育大学釧路校、北海道釧路市（共）
- 27) 大谷洋介、土橋彩加、福井弘道、杉田暁、松本卓也「上高地におけるニホンザル（*Macaca fuscata*）と公園利用者の潜在的遭遇リスク評価」日本霊長類学会第 41 回大会、A3-01、2025 年 7 月 13 日、早稲田大学早稲田キャンパス、東京都新宿区（共）

3. 2025年度に開催された研究会・シンポジウム等

2025年度、中部高等学術研究所主催のシンポジウムとして、「持続可能な地球の未来を設計する社会・生態システムズアプローチの挑戦」が開催された。概要は以下のとおりである。

「持続可能な地球の未来を設計する社会・生態システムズアプローチの挑戦」

日時：2025年5月7日（水）13:30～17:05

場所：中部大学 不言実行館1階 アクティブホール

開会挨拶：柳谷啓子（副学長）

趣旨説明：福井弘道（中部高等学術研究所長）

講演①「山岳地域を気候危機から守るー持続可能なアジアのために」

演者：Pema Gyamtsho（国際総合山岳開発センター〔ICIMOD〕所長）

講演②「The One Earth Bioregions Frameworkー自然復興・CNの実現のために、生態系に基づいて世界を地図化する」

演者：Karl Burkart（One Earth 副所長、共同創設者）

コメンテーター

- ・小森繁（環境省中部地方環境事務所長）
- ・大手信人（京都大学大学院情報学研究科教授）
- ・青木崇行（NPO 法人パックス・アース理事長、カディンチェ株式会社代表取締役）

総括・閉会挨拶：福井弘道（中部高等学術研究所長）

4. 国際 ESD・SDGs センター

4. 1. 国際 ESD・SDGs センター主催・共催事業

(1) 「第 16 回中部大学 ESD・SDGs 研究・活動発表会」の開催

日 時：2025 年 11 月 12 日（水） 15:20～18:20

場 所：中部大学 リサーチセンター2 階大会議室

主 催：中部大学 国際 ESD・SDGs センター

(プログラム)

15:20～15:30 開催のあいさつ 中部大学 学長 前島 正義

15:30～15:35 趣旨説明 中部大学 国際 ESD・SDGs センター長 古澤 礼太

第 1 セッション 司会：影浦 順子（経営情報学部講師/国際 ESD・SDGs センター）

15:35～15:45 感性の光でつながる社会：パラアーティストと創る SDGs 照明

田中 蒼祐、宮本 鈴（生命健康科学部 スポーツ保健医療学科）、MUSASH（石富プロパティアー所屬）、中谷 泰規（大阪・関西万博武蔵個展事務局副理事長 石富プロパティアー）

15:45～15:55 2 次救急搬送における救急車利用の実態～その救急車、本当に必要ですか？～

松清 輝也（生命健康科学研究科 保健医療学専攻）

15:55～16:05 「SDGs 時代のスマートウェルネス－センシング技術による健康寿命延伸プラットフォーム－」

菊澤 百々菜（工学研究科 情報工学専攻）

16:05～16:15 学生主体の生物多様性に関する標準化教育

「中部大学 ESD エコマネーチーム」松永 蓮平、池田 武琉（経営情報学部 経営総合学科）

16:15～16:25 休憩

第 2 セッション 司会：羽後 静子（国際関係学部特任教授/国際 ESD・SDGs センター運営委員）

16:25～16:35 子どもたちと共に学ぶ私たちの学びー子どもアカデミーの活動を通してー
谷村 和佳、兼松 朱音（現代教育学部 現代教育学科）

16:35～16:45 環境問題と人々の意識変革～愛・地球リレーシンポジウムのユース活動からの提言～

「愛・地球リレーシンポジウム 2025 ユースアンバサダー」島田 幸弥（国際関係学部 国際学科）

16:45～16:55 地域主権の電力事業 ～地産地消エネルギー～

高柳 てるか（国際関係学部羽後ゼミ 研究生〔元 CAAC〕）

16:55～17:05 中部大学の SDGs を調査する：サステナブル・キャンパスをめざして

井出 有香（国際関係学部 国際学科）、尾崎 清夏（人文学部 日本語日本文化学科）

17:05～17:15（招待発表1）Education through Cultural Activity

「インドネシア留学生協会」Flady Faliyenco Franggaratz Abubakar Pae（名古屋大学大学院 国際開発研究科）

17:15～17:25（招待発表2）ESD/平和の架け橋協働プロジェクト

「名古屋経済大学市邨高等学校」高橋 咲千香、鷹繁 文翔、川瀬 夢乃、松井 梨咲、佐藤 美陽、白井 湧紀、野田 愛月

第3セッション 17:30～18:20

17:30～18:10 討論会 進行：古澤 礼太（国際 ESD・SDGs センター長）

18:10～18:15 表彰式

18:15～18:20 閉会のあいさつ 伊藤 佳世（中部大学 経営情報学部准教授/国際 ESD・SDGs センター運営委員）

受賞者（団体）

学長賞：SDGs 時代のスマートウェルネスーセンシング技術による健康寿命延伸プラットフォーム

学長賞：学生主体の生物多様性に関する標準化教育

学長賞：地域主権の電力事業 ～地産地消エネルギー～

特別賞：文化活動を通じた教育：インクルーシブ教育の実現

特別賞：ESD/平和の架け橋協働プロジェクト

（2）中部大学 ESD・SDGs シンポジウムの開催

・第33回 2025年5月6日開催

「いのちをつなぐ水と流域・地球市民フォーラム in EXPO 2025」

日 時：2025年5月6日（火）13:30～15:30

会 場：大阪・関西万博会場（夢洲）「テーマウィーク・スタジオ」

主 催：いのちをつなぐ水と流域・地球市民対話プロジェクト推進委員会

共 催：イベント学会、一般財団法人 地球産業文化研究所〔GISPRI〕、中部大学国際 ESD・SDGs センター、中部 ESD 拠点協議会（国連大学認定 RCE）

【プログラム】

13:30 映像上映

13:35 司会挨拶（開催目的の説明および成果報告）朴 惠淑 三重大学名誉教授（元副学長）、WHO アジア・太平洋環境保健センター〔WHOACE〕初代所長

13:40 基調講演 1. 福井 弘道「水と流域」プロジェクト推進委員会 委員長、中部大学中部高等学術研究所 所長／2. Pema Gyamtsho 国際山岳総合開発センター〔ICIMOD〕所長／3. Karl Burkart One Earth 共同創設者・副ディレクター

14:25 パネルディスカッション『水と流域の未来』パネリスト：1. Jaehyang So Global Water Partnership (GWP) 技術委員会〔TEC〕委員長運営委員会メンバー、元世界銀行／2. 小池 俊雄 国立研究開発法人土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際セン

ター〔ICHARM〕センター長、東京大学 名誉教授／3. 竹本 和彦 国際湖沼環境委員会〔ILEC〕理事長、海外環境協力センター〔OECC〕理事、ICLEI〔持続可能な自治体協議会〕日本理事長／ファシリテーター：廣木 謙三 政策研究大学院大学〔GRIPS〕教授、水と災害に関するハイレベル専門家パネル〔HELP〕コーディネーター

15:20 提言文の発表

15:28 (Merry Project による「笑顔の傘」との写真撮影)

15:30 閉会

・第 34 回 2025 年 5 月 7 日開催

「持続可能な地球の未来を設計する社会・生態システムズアプローチの挑戦」

中部高等学術研究所設立 30 周年記念に向けたプレ講演会／デジタルアース共同利用・共同研究拠点連続シンポジウム 第 34 回 中部大学 ESD・SDGs シンポジウム

日 時：2025 年 5 月 7 日（水）13:30-17:05

開催場所：中部大学 不言実行館 1F アクティブホール

主 催：中部大学

後 援：環境省中部地方環境事務所

プログラム：

13:30 開始（開場：13:00）

13:30～13:45 開会挨拶・趣旨説明

【講演① 山岳地域を気候危機から守る ―持続可能なアジアのために】13:45～14:45

Pema Gyamtsho 国際総合山岳開発センター(ICIMOD) 所長

ブータンの自然資源管理、農林業政策に長年携わり、農林大臣や国会議員を経て 2020 年より現職。ヒンドゥークシュ・ヒマラヤ地域（HKH）出身の初めての所長として、同地域やアジアの河川集水域の持続可能な開発政策を主導。

【講演② the One Earth Bioregions Framework ―自然復興・CN の実現のために、生態系に基づいて世界を地図化する】15:00～16:00

Karl Burkart One Earth 副所長、共同創設者

レオナルド・ディカプリオ財団の科学技術担当部長を経て、現在は One Earth の共同創設者にして副所長。生態地域マッピングや Global Safety Net など科学的予測モデルを用いた空間情報プラットフォームを構築し、政策提言を行う。TED にも出演。

【コメント】16:15～17:00

・小森 繁（環境省中部地方環境事務所長）

・大手 信人（京都大学大学院情報学研究科教授）

・青木 崇行（NPO 法人ボックス・アース理事長、カディンチェ株式会社代表取締役）

総括・閉会挨拶 17:00～17:05

・第 35 回 2026 年 2 月 28 日（土）開催

「いのちをつなぐ水と流域・地球市民フォーラム 2026 in Aichi」

日 時：2026 年 2 月 28 日（土）10:30～17:50 3 月 1 日（日）9:20～13:30

場 所：愛・地球博記念公園 地球市民交流センター（愛知県長久手市茨ヶ廻間乙 1533-1）

主 催：「いのちをつなぐ水と流域・地球市民対話プロジェクト」推進委員会

共 催：イベント学会、一般財団法人地球産業文化研究所(GISPRI)、中部 ESD 拠点協議会（RCE Chubu）、中部大学国際 ESD・SDGs センター

協 力：公益財団法人三千年の未来会議、中部圏 SDGs 広域プラットフォーム、NPO 法人愛・地球プラットフォーム、NPO 法人愛・地球博ボランティアセンター

後 援：愛知県、環境省中部地方環境事務所、国土交通省中部地方整備局、農林水産省東海農政局

参加費：無料

＜第一部＞オープニングセッション（10:30～11:30）

司会：加藤 愛 フリーアナウンサー（元 CBC アナウンサー）

開会あいさつ：中村 利雄（イベント学会 会長、公益財団法人全国中小企業振興機関協会 会長、元愛・地球博事務総長、元中小企業庁長官）、福井 弘道（「水と流域・地球市民フォーラム」推進委員長、中部大学中部高等学術研究所長）

基調講演『いのちをつなぐ水と流域』：古澤 礼太（「水と流域・地球市民フォーラム」推進事務局長、中部大学国際 ESD・SDGs センター長）

ビデオメッセージ：廣木 謙三（政策研究大学院大学 名誉教授・客員教授、水と災害ハイレベルパネル〔HELP〕コーディネーター）

＜第二部＞

第 1 セッション（11:40～12:40）／伊勢・三河湾流域圏 ファシリテーター：古澤 礼太

発表 1 「Connecting Lives」：武藤 貴子（株式会社 POUSSE 代表）／発表 2 「Saving Lives」：松沢 政満（福津農園 農園主）／発表 3 「Empowering Lives」：酒井 智也（陶芸家）

コメンテーター：秀島 栄三（名古屋工業大学大学院工学研究科教授）、駒宮 博男（NPO 法人地域再生機構理事長）、加藤 愛（「祭りと SDGs」PJ メンバー、フリーアナウンサー）

第 2 セッション（13:40～14:40）／東京湾流域圏 ファシリテーター：福井 昌平（イベント学会副会長、元愛・地球博チーフプロデューサー）

発表 1 「Connecting Lives」：澤内 隆（東京都港区観光大使）／発表 2 「Saving Lives」：清野 和彦（秩父市長）／発表 3 「Empowering Lives」：賀来 宏和（千葉大学大学院園芸学研究科客員教授）

コメンテーター：町田 誠（一般財団法人公園財団常務理事）、三井 元子（NPO 法人あらかわ学会事務局長、日本河川協会理事）、稲本 正（工芸家、作家）

第 3 セッション（14:50～15:50）／大阪湾流域圏 ファシリテーター：鈴木 康久（京都産業大学現代社会学部教授）

発表 1 「Connecting Lives」：瀧 健太郎（京都大学防災研究所教授）／発表 2 「Saving Lives」：竹門 康弘（大阪公立大学国際基幹教育機構客員研究員）／発表 3

「Empowering Lives」：尾田 栄章（国連・水と衛生に関する諮問委員会〔UNSGAB〕委員）

コメンテーター：大滝 裕一（（株）東京建設コンサルタント関西本社京都事務所技師長）、石田 裕子（摂南大学理工学部都市環境工学科教授）、澤井 健二（摂南大学名誉教授）

第4セッション（16:00～17:00）／「玄界灘」流域圏 ファシリテーター：岩熊 正道（RKB 毎日放送株式会社代表取締役専務取締役）

発表1「Connecting Lives」：中井 徳太郎（三千年の未来会議代表理事、元環境事務次官、日本製鉄顧問）／発表2「Saving Lives」：清野 聡子（九州大学大学院工学研究院准教授 ※オンライン）／発表3「Empowering Lives」：葦津 敬之（宗像大社宮司）

コメンテーター：山田 邦博（三千年の未来会議理事、元国土交通事務次官、一社日本建設情報総合センター理事長）、緒方 勇斗（株式会社 STAR UP 代表取締役〔CEO〕）、室原 一仁（九州大学農学部4年生、九州大学うみつなぎ、maiPLA メンバー）

全体討論（17:00～17:50）

特別基調講演：H.M.J.K. ヘラート（スリランカ・マハウェリ開発庁長官〔Mahaweli Authority of Sri Lanka：MASL〕 ※オンライン）
終了（17:50）

<第三部>交流セッション『味わって考える伊勢・三河流域圏のサステナビリティ 2026』（18:00～19:30）

来賓あいさつ：福井 逸人（農林水産省東海農政局次長）

講師：伊藤 邦夫（世界のおふくろの味研究家）、松沢 政満（福津農園農園主）、下田 菜生（22世紀奈佐の浜プロジェクト） ※参加費（材料費）：500 円

【二日目】ユース会議・エクスカーション

「いのちをつなぐ水と流域・地球市民フォーラム」ユース会議 2026 in Aichi（9:20～13:30）

場所：愛・地球博記念公園 地球市民交流センター 体験学習室1（途中、エクスカーション合流）

ジブリパーク（無料ゾーン）エクスカーション（11:00～13:30） 出発・解散：愛・地球博記念公園 地球市民交流センター 体験学習室1

（3）「中部大学 ESD 通信」の発行

Vol.48 を 2025 年 7 月、Vol.49 を 2025 年 11 月、Vol.50 を 2026 年 3 月に発行。

編集委員会：古澤センター長、山羽教授、武田准教授、影浦講師

（4）学内 ESD・SDGs 教育活動の支援：ESD・SDGs 活動の可視化（ポイント制度）の検討

学生による、SDGs 学際専攻プログラム等の学内 SDGs 講義受講（座学）や活動の実績を可視化して更なる参加を促進することを目的としたポイント制度の検討を開始した。

（５）国際 ESD・SDGs センターその他の活動

- ・ SDGs AICHI EXPO2025 への中部大学ブース出展（2025 年 10 月 3 日～4 日）

「SDGs 子ども・ユースフェア」への中部大学ブース出展 会場：愛知県国際展示場（Aichi Sky Expo）

10 月 3 日 テーマ：燃料電池や二酸化炭素と水と余剰電力から燃料をつくるためのイオン導電体の研究 理工学部 物理サイエンス学科 橋本真一先生・学生 3 名

テーマ：英語話者による食感の表現 人文学部 武藤 彩加先生

10 月 4 日 テーマ：SDGs×幼児教育・保育～楽器と絵本のクイズをして大学生と遊ぼう～現代教育学部 幼児教育学科 寺井 郁子先生・学生 3 名

テーマ：学科課外活動「なるほど！子どもアカデミー」SDGs 活動紹介（ペットボトルを使ったストラップづくり） 現代教育学部 現代教育学科 味岡 ゆい先生・学生 3 名

4. 2. 国際 ESD・SDGs センター地域連携事業

（１）中部 ESD 拠点協議会主催「中部サステナ政策塾」活動

○ 第 10 期中部サステナ政策塾の開催

テーマ：「東海・中部地域のサステナブルスポット 100 選と観光ルート（持続路）を作ろう～ユースの異業種交流を通して考える SDGs と地域資源」

2025 年度には、第 10 期となる中部サステナ政策塾を実施した。27 名の塾生が入塾し、下記の講座を受講した。

- ・ 第 1 回講座：オリエンテーション「SDGs～考える地域資源と観光」

日 時：7 月 27 日（日）13:00～16:00

場 所：中部大学 リサーチセンター（愛知県春日井市松本町 1200）

主 催：中部 ESD 拠点協議会 共催：中部大学国際 ESD・SDGs センター

第一部 13:00 開会挨拶：竹内 恒夫氏（中部 ESD 拠点運営委員長）／13:05 趣旨説明：古澤 礼太氏（中部 ESD 拠点協議会事務局長）／13:20 塾生の自己紹介

第二部 13:35 テーマ「留学生からみた日本のサステナブル観光の現状」話題提供者：Flady Faliyenco Franggaratz Abubakar Pae（名古屋大学大学院）

第三部 14:40 異業種交流会

- ・ 第 2 回講座：「自然・食／農と観光」

日 程：8 月 25 日（月）19:00～20:45

会 場：名古屋国際センタービル 3 階第一研修室（愛知県名古屋市中村区那古野 1 丁目 47-1）

主 催：中部 ESD 拠点協議会 共催：中部大学国際 ESD・SDGs センター

19:00 趣旨説明と今後の進め方：古澤 礼太（中部 ESD 拠点協議会事務局長）

19:15 話題提供 タイトル『持続可能な農業こそが「持続可能な開発」を達成するための重

要な要素！～農業や六次産業化をリフレーミングする！！～』話題提供者：伊藤 彰紀（愛知県農業水産局農政部園芸農産課／塾生）、中野 公雄（愛知県地域資源活用・地域連携サポートセンター事務局長／半田市六次産業化プロジェクトリーダー）

19:45 ディスカッション

・第3回講座：「文化と観光」（伝統文化・宗教ツーリズム・祭り・芸術など）

日 時：9月18日（木）19:00～20:45

会 場：名古屋国際センタービル3階第2研修室

主 催：中部ESD拠点協議会 共催：中部大学国際ESD・SDGsセンター

19:00 話題提供① タイトル『祭りとサステナブル観光』講師：石田 芳弘（中部サステナ政策塾顧問／元犬山市長）

19:20 話題提供② タイトル『多文化共生とサステナブル観光』講師：中島 弘象（塾生／『フィリピンパブ嬢の社会学』著者）

19:35 ディスカッション「祭りと多文化共生の視点から考えるサステナブル観光」

・第4回講座：『名古屋市「戸田まつり」で考えるSDGsと観光！』（日本の祭りとSDGsワークショップとの共催）

日 時：2025年10月5日（日）11:00～16:00 ※詳細は「日本の祭りとSDGsプロジェクト」参照

・第5回講座：雲出川フィールドワーク

テーマ：雲出川流域圏のサステナビリティと地域資源を考える

日 時：11月29日（土）～11月30日（日）

場 所：三重県津市等

主 催：中部ESD拠点協議会 共催：中部大学国際ESD・SDGsセンター

【1日目】JR千種駅集合・出発→白塚海岸（志登茂川浄化センター、講師：西口 恵子氏〔白塚の浜を愛する会〕）→津バイオマス発電所→昼食→長命水（榊の井）→JA みえなかふれあいマーケットぬくいの郷→青山高原ウインドファーム→おおぼら山荘（宿泊）

【2日目】伊勢川上山若宮八幡宮（雲出川の水源の神社）→津市美杉ふるさと資料館→道の駅美杉→木材乾燥貯蔵所（講師：藤崎 昇氏〔NPO法人もりずむ〕）→リバーパーク真見→家城神社→雲出川の土手→香良洲歴史資料館→香良洲神社→香良洲海岸（雲出川最下流）→TU BAR（講師：山田 ロサリオ氏〔日本ボリビア人協会〕、佐久間 英途氏〔チベット友の会〕、テンガン モザ アウグスト氏〔TU BAR〕）→キンブル弥富店（ワークショップ）→JR千種駅ロータリー解散

・第6回講座：「産業と観光」（産業遺産・地域経済史、ものづくり・技能文化など）

日 時：2026年1月21日（水）19:00～20:45

会 場：名古屋国際センタービル4階第3研修室

19:00-19:05 趣旨説明と今後の進め方：古澤 礼太（中部ESD拠点協議会事務局長）

19:05-19:35 話題提供『「雰囲気」をデザインする観光における持続可能な「場」の創出』氏家 鉄也氏（株式会社電通名鉄コミュニケーションズ ビジネスクリエイション局 CX プランニング部シニア・ディレクター、一級建築士）

19:45-20:45 ディスカッション（サステナブル観光ルートの検討）

・第7回講座（最終講座）：「東海・中部地域の観光100選発表」

日 時：3月28日（土）14:00～16:30

会 場：STATION Ai M 3階大会議室1（愛知県名古屋市昭和区鶴舞1丁目2-32）

14:00 開会挨拶：竹内 恒夫（中部ESD拠点運営委員長）／14:10 趣旨説明／14:20 第10期活動成果発表（講座、フィールドワーク、持続路発表）

15:00 政策塾活動の総括：古澤 礼太（中部ESD拠点事務局長）／15:15 塾生（OB/OG含む）からのスピーチ

16:10 コメント：柳谷 啓子（中部ESD拠点代表）／16:20 閉会挨拶：石田 芳弘（中部サステナ政策塾顧問）／16:30 終了（終了後、鶴舞公園で花見）

（2）中部ESD拠点主催「日本の祭りとSDGsプロジェクト」の実施

同時開催：中部サステナ政策塾第4回講座『祭りと稲作を支えた戸田の環境と経済』との共催

日 時：2025年10月5日（日）11:00～16:00

場 所：富田地区会館（愛知県名古屋市中川区戸田4丁目2502）

第1部 11:00～11:15 趣旨説明：古澤 礼太氏（中部ESD拠点事務局長、中部大学教授）

11:15～11:45 話題提供①：『山車とからくり人形の魅力！』話題提供者：溝口 正成氏（からくり人形研究者）、石田 芳弘氏（中部大学フェロー）

11:45～12:00 解説：『戸田の魅力を見つけよう！』話者：中部サステナ政策塾第10期塾生

第2部 12:00～13:30 祭り見学「サステナブルな魅力発掘」（出店等で昼食休憩含む）

第3部 13:30～14:00 話題提供②：『木曾三川下流域の米づくり』話題提供者：諸戸 靖氏（郷土史家、元輪中の郷館長）

14:00～15:00 『サステナブルな魅力発掘ワークショップ』

15:00～16:00 交流会

16:00～ 講座終了（終了後、祭り見物）

（3）中部ESD拠点 その他の活動

○愛知万博20周年記念事業への協力

「愛知万博20周年記念事業」の実行委員会委員として中部ESD拠点が参画。20周年記念連続シンポジウムは、古澤礼太委員／事務局長がプロデューサーとして企画運営を担当した。

「愛・地球リレーシンポジウム2025～サステナブルな未来をおもう～」

主 催：愛知万博20周年記念事業実行委員会

協 力：愛知学長懇話会SDGs企画委員会、中部ESD拠点協議会（国連大学認定RCE Chubu）、中部圏SDGs広域プラットフォーム、環境省中部環境パートナーシップオフィス、NPO法人愛・地球博ボランティアセンター

・第1回シンポジウム

日時：2025年4月19日（土）13:00～16:00 場所：愛・地球博記念公園地球市民交流セ

ンター

テーマ「懐う：愛・地球博の理念はレガシーになったか？」

基調講演「愛・地球博がめざしたもの」講師：中村 利雄（元）愛・地球博事務総長

パネルディスカッション「愛・地球博の理念は生きているか？」パネリスト：吉澤 卓（わかまつや代表／地球市民村）、大棟 耕介（NPO 法人日本ホスピタル・クラウン協会理事長／市民プロジェクト）、森 理恵子（CBC ラジオディレクター）、信時 正人（神戸大学学術研究推進機構 SDGs 推進室客員教授）、佐藤 有美（長久手市長、元日本館アテンダント）

ナビゲーター：古澤 礼太（中部大学国際 ESD・SDGs センター長・教授）、加藤 愛（フリーアナウンサー）

・愛・地球活動のポスター発表

・第2回シンポジウム

日時：2025 年 8 月 11 日（月・祝）13:00～16:00 場所：愛・地球博記念公園地球市民交流センター

テーマ「想う：SDGs 時代の愛・地球とは？」

趣旨説明：古澤 礼太（中部大学国際 ESD・SDGs センター長・教授）

基調講演「SDGs 時代の自然の叡智と地球大交流」講師：福井 昌平（元 2005 年日本国際博覧会チーフプロデューサー、イベント学会理事・副会長）

パネルディスカッション「グローバルな愛・地球とは？」パネリスト：坂本 健太郎（豊根村役場職員）、川西 太士（株式会社 EFK 代表取締役）、甲斐 和歌子（NPO 法人ジョイセフ職員）、杉山 範子（東海学園大学教授）、寺社下 茜（NPO 法人セブン・ジェネレーションズ理事）

ナビゲーター：飯尾 歩（元中日新聞論説委員）、古澤 礼太

ユース・アンバサダー活動紹介（5 カ国の留学生／日本の学生 合計 6 名） 終了後：ミニ交流会

・第3回シンポジウム

日時：2025 年 9 月 13 日（土）13:00～16:00 場所：愛・地球博記念公園地球市民交流センター

テーマ「念う：未来に向けた私たちの約束」

総合司会：加藤 愛（フリーアナウンサー）

基調講演「次世代の Love the Earth」講師：平原 依文（HI 合同会社代表、青年版ダボス会議 One Young World 日本代表）

パネルディスカッション「私が宣言する地球の愛し方とは？」パネリスト（世界 6 カ国のユース・アンバサダー）：島田 幸弥（日本／中部大学国際関係学部）、Flady Pae（インドネシア／名古屋大学大学院国際開発研究科）、Riedl Lisa-Maria（オーストリア／名古屋大学大学院法学研究科）、Diku-Dery Anthony（ガーナ／南山大学人文学部）、Liu Haihui（アメリカ／名古屋大学大学院環境学研究科）、Taylor Heath（オーストラリア／中部大学国際交流センター日本研修プログラム）

スペシャルゲスト：竹下 景子（俳優、元愛・地球博日本館総館長）

コーディネーター：古澤 礼太（愛・地球リレーシンポジウム総合プロデューサー）
・愛・地球活動のポスター発表 ・「愛・地球～未来へのメッセージ 2025～」の宣言発表
終了後：交流会

（４）＜地域連携活動＞

高山市 SDGs パートナリシップセンターのオブザーバーとして活動協力をおこなった（地域連携センターを窓口として、古澤センター長が担当）。

（５）愛知学長懇話会 SDGs 企画委員会

本年度は「愛・地球リレーシンポジウム 2025」（４．２．（３）参照）への協力および、愛知県内の大学における SDGs 情報の収集・発信（下記（６）参照）を実施した。

（６）愛知県内の大学における SDGs 情報の収集・発信

愛知学長懇話会 SDGs 企画委員会活動および愛知県内の大学における SDGs に関する情報収集と発信を行うホームページを開設した。

<http://www.aichi-gakuchou-sdgs.org/>

（７）いのちをつなぐ水と流域・地球市民対話プロジェクト

本年度は、本プロジェクトの主要行事として、第 33 回中部大学 ESD・SDGs シンポジウム「いのちをつなぐ水と流域・地球市民フォーラム in EXPO 2025」（2025 年 5 月 6 日、大阪・関西万博会場）、および第 35 回中部大学 ESD・SDGs シンポジウム「いのちをつなぐ水と流域・地球市民フォーラム 2026 in Aichi」（2026 年 2 月 28 日～3 月 1 日、愛・地球博記念公園地球市民交流センター）を開催した。詳細は 4．１．（２）を参照。

4．３．国際 ESD・SDGs センター 研究等業績

[受託・共同研究／外部資金等]

○岡本 肇

・科研費 基盤研究 B（2022 年度～2025 年度）（1 年延長）課題名「都市生態システムを基盤とするまちづくり庭園の空間計画論と地域事業制度の研究開発」（分担、研究代表者：有賀 隆）

○古澤 礼太

・科研費 基盤研究(B)（2025 年度～2028 年度）課題名「社会関係資本に基づくレジリエントな小規模水産物フードシステム構築に資する地域研究」（分担、研究代表者：稲井 啓之）
・科研費 基盤研究(B)（2025 年度～2028 年度）課題名「アフリカ漁民社会の資源利用秩序と互助組織の比較研究による資源デカップリングの実証」（分担、研究代表者：中村 亮）

[論文・出版]

○古澤 礼太

・古澤礼太（2025）「第 41 章 漁民の世界——首都アクラの漁村から」、「【コラム 10】

トウモロコシの主食文化」、『ガーナを知るための 57 章【第 2 版】』、山田肖子・溝辺泰雄（編）、明石書店

・古澤礼太（2025）「第 9 章 西アフリカ・ギニア湾沿岸の酸っぱい主食——ガーナ共和国首都アクラのトウモロコシ発酵食品「ケンケ」」、「【コラム 1】トウモロコシの祭礼食は「種なし」パン?」、『食文化からアフリカを知るための 65 章』、藤本武・八塚春名・桐越仁美（編）、明石書店

・原理史、古澤礼太、水上聡子、堺勇人（2026）「地域循環共生圏の活動を評価する枠組みの検討」、環境共生、42 巻 1 号、p.65-72（査読付）

○岡本 肇

・Hajime Okamoto, "A Case of Minokamo City Satoyama Millennium Concept and Plan as an Opportunity to Create Sustainable Satoyama" (Chapter 4, Section 2, pp. 85-100), and "The Village of Craftsman Culture and Industrial Landscape Nurtured by Kilns: Initiatives in the Hora District of Seto City" (Chapter 8, Section 1, pp. 160-173), in Takashi Ariga (ed.), Japanese Environmental Design and Management for Sustainable Urbanism: Learning from Satoyama, Routledge, 2025.

・金澤竣之介、岡本肇（2025）「土地区画整理事業完了後の農地存続・消失条件に関する研究～名古屋市中川区の田畑を比較して～」、都市計画報告集、23 巻 4 号、pp.528-532

・杉井俊夫、伊藤睦、武田誠、岡本肇、並松沙樹、戸塚雄三（2025）「都市建設工学科学の学習行動データの分析と個別支援の試み」、中部大学教育研究、25 巻、pp.21-27

・曾我智和、岡本肇（2026）「若年層の利用実態と居場所評価からみた複合公共施設の役割」、都市計画報告集、24 巻 4 号、pp.630-634

○影浦 順子

・影浦順子（2025）「戦後日本のフィクサーをめぐる研究動向」、産業経済研究、8 号、55-65

○原 理史（研究員）

・原理史、古澤礼太、水上聡子、堺勇人（2026）「地域循環共生圏の活動を評価する枠組みの検討」、環境共生、42 巻 1 号、p.65-72（査読付）

・原理史、田開寛太郎、杉田暁、松村顕司（2026）「GIS を活用した地理総合授業における ESD 実践—「ミステリーワークショップ」を組み込んだ普通科高校での授業研究—」、環境教育、通巻 97 号掲載予定（査読付）

[講演・発表等]

○岡本 肇

・岡本肇（2025）（基調講演）「空閑地・オープンスペースの新たな利活用方法を考える」、中部大学技術士会令和 7 年度定期総会、2025 年 11 月 1 日

○古澤 礼太

・古澤礼太（2026）「いのちをつなぐ水と流域」（基調講演）、いのちをつなぐ水と流域・地球市民フォーラム 2026 in Aichi、2026 年 2 月 28 日、愛・地球博記念公園地球市民交流センター

・古澤礼太（2026）「中部圏 SDGs 広域プラットフォームとサステナビリティ人材育成（ESD）の 5 年間の軌跡」（口頭発表）、中部圏 SDGs 広域プラットフォーム 5 周年記念シ

ンポジウム、2026年2月22日、名古屋国際センター別棟ホール、名古屋

・古澤礼太（2025）「流域圏文明の創造をめざして～「いのちをつなぐ水と流域・地球市民フォーラム」の実践と展望～」（口頭発表）、第28回イベント学会研究大会、2025年11月8日、目白大学、東京

・古澤礼太、林秀敏、原田伸介（2025）「技能尊重社会の実現に向けたムーブメント促進に関する研究～2028年技能五輪国際大会（愛知県開催）を見据えて～」（口頭発表）、第28回イベント学会研究大会、2025年11月8日、目白大学、東京

・FURUSAWA, Reita（2025）'ESD for Sustainable Regional Design Based on the Water-Region Approach'（poster）、14th Global RCE Conference、21-23 October 2025、Okayama Convention Center、Okayama

・古澤礼太（2025）「ユネスコスクールで考える地球と地域のサステナビリティ（持続可能性）」、豊橋南高等学校令和7年度1年生ユネスコスクール講演会、2025年10月8日、愛知県立豊橋南高等学校、愛知

・原理史・古澤礼太・水上聡子・堺勇人（2025）「地域循環共生圏の活動を評価する枠組みの検討」、日本環境共生学会第28回（2025年度）学術大会発表論文集、p.30-31、2025年9月19日～20日、拓殖大学、東京

・FURUSAWA, Reita（2025）'Building a Water-Region Civilization: A Call for Actions from International Forum at 2025 EXPO Osaka Kansai, Japan', The Seventh Special Thematic Session on Water and Disasters "Water and Disasters for Cooperation and Partnerships,"（panelist）United Nations Headquarters, New York, 8 July 2025

・原理史・古澤礼太・水上聡子・堺勇人「ローカルSDGsのためのESDの社会実装～ワークブックを活用したESD担い手づくり」、第5回日本環境教育学会中部支部（名古屋大会）、2025年6月21日～22日、稲永ビジターセンター、名古屋

・古澤礼太（2025）「アフリカ・ガーナの漁民の暮らし」、大府市大学等連携講座おおぶアカデミー、2025年6月1日、大府市森岡公民館、愛知

・古澤礼太（2025）「植民地起源都市アクラの漁撈文化」（口頭発表）、第4回漁業人類学研究会、2025年5月24日、福岡大学、福岡

○原理史（研究員）

・原理史・古澤礼太・水上聡子・堺勇人（2025）「ローカルSDGsのためのESDの社会実装～ワークブックを活用したESD担い手づくり」、第5回日本環境教育学会中部支部（名古屋大会）、2025年6月21日～22日、稲永ビジターセンター（愛知県名古屋市）

・原理史・古澤礼太・水上聡子・堺勇人（2025）「地域循環共生圏の活動を評価する枠組みの検討」、日本環境共生学会第28回（2025年度）学術大会発表論文集、p.30-31、2025年9月19日～20日、拓殖大学（東京都八王子市）

・原理史・田開寛太郎・杉田暁・松村顕司（2025）「GISを活用した地理総合授業におけるESD実践ー「ミステリーワークショップ」を組み込んだ普通科高校での授業研究ー」、2025年10月9日～10月12日、北海道教育大学釧路校（北海道釧路市）

5. 国際 GIS センター

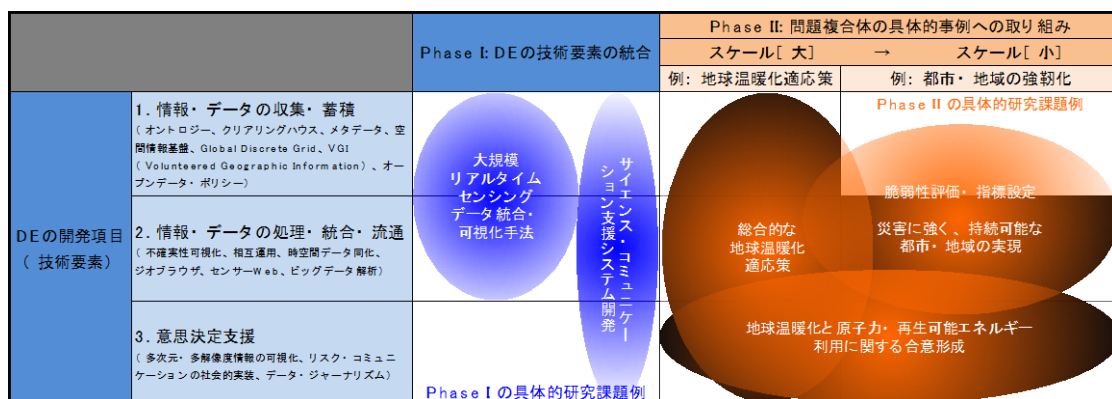
5. 1. 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

現在人類は、自然災害のリスクから科学技術に伴うリスクに加え、地域・民族紛争ばかりか最近では地球温暖化といったリスクなど、様々なリスクを抱えている。これらのリスクは、相互に関連するとともに、ある局所的に突発した些細な事象が、急速に全球レベル波及し、人類の持続性の脅威にもなりかねない。

このような複合的かつ早急に対処を要するリスクに対応するためには、問題の把握と対応を実時間（リアルタイム）に行い、諸科学を横断して因果分析やプロセス分析を総合的に融合するといった、新しい問題対応手法が必要となる。そこで中部大学では、成熟した技術となりつつある、GIS、空間情報科学（Geoinformatics）によるアプローチが有効であると考え、複数の研究者がコラボレーションをするための組織を創り、新しい問題対応手法の開発について研究を進めることとした。

拠点の目的：

情報科学、リモートセンシング、GIS、社会工学等に関する研究者との共同利用・共同研究を通じて、サイバースペース上に構築される多次元・多解像度の地球（デジタルアース）の研究開発を行う。さらに環境、災害等の問題複合体の研究者に対し、デジタルアースを提供し、共同利用・共同研究により持続可能な社会を構築するため、問題複合体を解題し、合意形成に寄与するとともに関連諸科学の発展に貢献する。



令和 7 年度採択共同研究：

特定課題研究

研究課題番号：IDEAS202501

研究課題名：デジタルアース技術を活用した山岳景勝地における
野生動物保全と観光の併存

研究代表者：大谷洋介（大阪大学）

研究概要：本研究は、国立公園等の山岳景勝地における観光利用とヒューマン・ワイルドライフ・コンフリクト（HWC）回避を目指し、デジタルアース技術を用いて人・動物双方の土地利用要因を解明・提示したものである。中部山岳国立公園・上高地を対象に、2024 年度の遭遇可能性リスク評価で高リスクとされた中央部散策エリアに着目。2025 年 11 月にドローン空撮等の現地調査を実施し、水域や遊歩道、宿泊施設、展望地点などの詳細な土地属性データを空間情報化・整備した。これらのデータと GPS 追跡に基づくニホンザル位置データ（資源選択モデル/IPP）およびモバイル空間統計に基づく公園利用者データ（GAM）を統合・解析した。その結果、ニホンザルの出現傾向（AUC=0.84）と公園利用者の利用強度（ $R^2=0.86\pm0.03$ ）はともに高い精度で予測・可視化された。双方の比較から、宿泊施設や展望地点の周辺は観光的価値とサルの資源利用が重なる重要空間であり、高遭遇リスクの背景にあることが判明した。本成果は、巡視や看板配置、注意喚起等の重点管理を科学的根拠に基づいて効果的に行うための情報基盤を提供する。

研究課題番号：IDEAS202502

研究課題名：社会・環境変動下における北極域沿岸コミュニティの持続可能性

研究代表者：三谷曜子（京都大学）

研究概要：本研究は、気候変動や社会構造の変化に直面するグリーンランドを対象に、自然・社会環境の相互作用を解析し、沿岸コミュニティの持続可能性を評価したものである。北西部のカナック（Qaanaaq）等でのフィールド調査を中心に、狩猟されたアザラシ類の胃内容物解析から海洋生態系（ホッキョクダラ等）を可視化した。また、嗜好性調査や食事の撮影、360 度カメラによる街並みの 3D ストリートビュー撮影を実施した。その結果、住民は畜肉よりもイッカク等の伝統食を強く好む一方、地球温暖化による温帯性の魚種の北上、反毛皮運動に伴う貨幣経済化、食の西洋化などの変容も明らかになった。特に南部や都市部では西洋料理や輸入肉の浸透が見られるものの、北部では伝統的な狩猟と自給自足的食文化が依然として重要であることが示された。科

学データと伝統的知識を融合させた適応策が不可欠であり、今後はデジタルアース上での情報可視化を通じて意思決定を支援し、調査成果を地域へ還元しながら多様な価値観を反映した持続可能性科学の構築を目指す。

カテゴリ 1：デジタルアースの技術要素の統合

1－2：基盤データ構築および分析・不確実性可視化手法（3次元データ、時系列データ）

研究課題番号：IDEAS202503

研究課題名：センサーデータ検索・分析・予測のための深層学習モデルを用いた特徴量データベースの構築

研究代表者：鷹野孝典（神奈川工科大学）

研究概要：本研究は、自然環境観測において観測地点やモデルごとに異なるニューラルネットワークを使用する際、潜在空間の違いにより画像特徴ベクトル間の類似性を直接比較・検索できないという課題の解決を目指したものである。異なる潜在空間から選択したサンプルベクトル（クラスタの重心等）に対し、ラベルに応じた距離学習を行うことで最適な潜在空間を媒介させ、未サンプリングのベクトル間でも近似的な距離算出や結合演算を可能とする手法を提案した。学内緑地での観測ビークルを用いたデータ収集体制を構築するとともに、農作物画像を用いた複数のVAE潜在空間での検証実験を実施した。その結果、提案手法により同一ラベルのベクトル間では高く、異ラベル間では低い類似度が精度よく算出され、異種潜在空間を横断した高精度な類似画像検索（上位件数の抽出等）が可能であることを実証した。今後は特徴抽出精度の向上と大規模データでの実用性検証を進める。

1－3：サイエンス・コミュニケーション・システム開発

研究課題番号：IDEAS202504

研究課題名：マインドクライメートの必須観測変数の抽出

研究代表者：上野ふき（名古屋大学）

研究概要：本研究は、自然環境（ECV等）や社会活動（ESV等）の必須変数（EV）概念の発展を踏まえ、人々の心情や価値観・世界観といった内面的次元を捉える「Mind Climate 必須変数（EMCVs）」の抽出枠組みを提案したものである。エビデンスのみ

では解決が困難な社会的合意形成の背景にある「観」を可視化・測定することを目的とする。具体的には、マインドクライメート (MC) を構造化する主要な「観」として、①人間観、②価値・倫理観、③世界・自然観、④未来・時間観の4つを第2層 (上位領域) として配置した。これらに「形成システム」 (自然・物理、生物・生態、人類・社会・MC 環境) を交差させた多層構造モデルを提示し、具体的な測定可能変数 (EV) を導出するための概念的枠組みを整理した。本枠組みは、従来の自然環境・社会活動の EV を補完する第3の層として機能し、持続可能な社会への変革や社会的対立の緩和に寄与することが期待される。

1-4: ビッグデータ解析のデジタルアースへの応用

研究課題番号: IDEAS202505

研究課題名: 都市 Void の計測と評価: デジタルアース技術と行動評価の融合

研究代表者: 紀伊雅敦 (大阪大学)

研究概要: 本研究は、阪急大阪梅田駅構内 (BIGMAN 前広場・1階中央 WEST 広場) を対象に、三次元空間構造と歩行者の滞留行動との関係性を定量的に評価・解明したものである。都市の余剰・未利用空間 (Urban Void) が「程よい空白」として人々に受容・利用されるメカニズムの解明を目指した。手法として、Structure from Motion (SfM) を用いた早朝撮影データから 3D 空間モデルを構築し、isovist 理論に基づき歩行者の移動方向に応じた前方視野 (見通し) と後方視野 (被保護性) の視認特性指標を算出。同時に、定点カメラ映像から YOLOv8 等の深層学習技術とホモグラフィ変換を用いて人流軌跡データを抽出し、両データを同一座標系上に統合して二項ロジットモデルによる分析を行った。分析の結果、前方の視認性が高い (見通しが良い) ほど滞留確率が有意に上昇し ($\beta=0.241, p<0.01$)、後方の開放性が高い (壁等の遮蔽が少なく被保護性が低い) ほど滞留確率が低下する ($\beta=-0.305, p<0.001$) ことが立証された。これは環境心理学の「Prospect-Refuge 理論」を定量的に実証したものであり、居心地の良い公共空間設計に向けた客観的な評価枠組みを提示した。

研究課題番号: IDEAS202506

研究課題名: デジタルアース技術を活用した野生ベニガオザル地域集団の保全: 地域農業との持続可能な共存の探索

研究代表者: 豊田有 (京都大学)

研究概要: 本研究は、タイ王国のカオタオモー保護区において個体数が急増した危急種ベニガオザルによる農作物被害の背景を解明し、種の保全と地域農業との持

続可能な共存策を提示することを目的とする。改正土地・建物税法等の影響による急激な雑木林の農地転換や森林分断化が、サルの農地出没を誘発していると分析されている。本年度はドローンを用いた高精度な環境計測を実施し、サルの主要遊動域を含む 1.42 km²のエリアを 10 区画に分けて DJI Phantom 4 Multispectral によるプログラム飛行を行った。取得した約 2 万枚の画像データから SfM/MVS 処理を用いて 3 次元高密度点群やオルソ補正写真地図、デジタル標高モデル (DEM) を生成した。今後は、マルチスペクトル解析 (NDVI 等) による食物資源や植生の評価、衛星画像との統合による長期的な土地利用変化の解析、さらにサルの位置データと重ね合わせた行動選択・被害リスク予測モデルの構築を進め、環境収容力の評価や適正な管理計画策定のための空間情報基盤を整備する。

研究課題番号：IDEAS202507

研究課題名：グリーンランド北西部のカービング氷河末端におけるアザラシを用いた海洋環境の時空間動態の可視化

研究代表者：櫻木雄太（京都大学）

研究概要：本研究は、観測が困難なグリーンランド北西部のカービング氷河末端域において、ワモンアザラシに装着した衛星発信器 (CTD-SRDL) を活用し、海洋環境の季節変化および生物学的ホットスポットを形成する湧昇流 (プルーム) の出現メカニズムを解明したものである。2021 年および 2023 年の 8 月にワモンアザラシ 7 個体へ機器を装着し、水温・塩分・深度データを取得した。さらに ArcGIS Experience Builder を用いて、水温・塩分の鉛直分布と領域気候モデルによる氷河融解水量を統合・可視化するシステムを構築した。分析の結果、Heilprin 氷河末端域等において 8~10 月に低水温・低塩分のプルームが確認されたが、その出現時期は表面融解量が最大となる 8 月ではなく、9 月以降に頻出する傾向を示した。これにより、プルーム形成は表面融解量単体ではなく氷底排水システムの発達状態に依存することが実証され、生態系評価には氷底排水過程の考慮が不可欠であることが示された。

研究課題番号：IDEAS202508

研究課題名：気候変動適応に資する分散インフラの情報集積・活用とそのオープンサイエンス実践モデルの形成

研究代表者：小田真人（神戸情報大学院大学）

研究概要：本研究は、気候変動に伴う水災害に対して分散型流域治水に寄与する「雨庭（グリーンインフラ）」に着目し、シチズンサイエンスと GIS を統合したオープ

ンサイエンスモデルの構築を目指したものである。全国 Q 地図を活用して雨庭の位置・属性情報を登録できる基盤を整備し、橋梁リスクや浸水想定区域等の公開データと GIS 上で重ね合わせて可視化した。また、市民や関係者を対象とした勉強会・ワークショップを開催し、竹筋コンクリート等を用いた雨庭施工の実践とデータ化を連携させた。空間分析による基礎的検証では、熊本県内の雨庭（31 か所）とリスク橋梁（670 橋）の配置関係を算出し、雨庭の近傍（中央値約 967m）にリスク橋梁が一定程度分布する空間的關係性を提示した。これにより、「データ生成→統合→分析→還元」という循環構造を確立し、分散型インフラの効果を流域スケールで客観評価するデータ基盤モデルを提示した。

研究課題番号：IDEAS202509

研究課題名：Implementing Mobile Mapping Vehicles to Assess Street Objects and Quality of Life (SQoL) with Multi-Sensor Systems on a Smart Campus in Thailand.

研究代表者：Teerayut Horanont (Thammasat University)

研究概要：This project presents a collaborative initiative between Thammasat University (Thailand) and Chubu University (Japan) aimed at advancing Street-level Quality of Life (SQoL) assessment on a smart university campus. By deploying Smart Small Vehicles (SSVs) equipped with multi-sensor systems—including 360-degree panoramic cameras, LiDAR, noise, and PM2.5 sensors—the study captures environmental, spatial, and infrastructure data across Thammasat University's Rangsit Campus to create a real-time Digital Twin.

The research is organized into two mutually reinforcing tracks:

- **Track A:** Establishes the core SQoL methodology, sensor architecture, and data pipeline to prepare for full-scale campus deployment and digital mapping.
- **Track B:** Focuses on foundational autonomous perception and AI decision-making tools to ensure reliable data collection under complex real-world conditions. This includes developing a Modified Sparse Transformer (MST) for camera-LiDAR fusion (achieving an 82.98% 3D mAP on the KITTI benchmark), a roadside-sensor infrastructure framework that boosts perception resilience by up to 43% in adverse weather, and an LLM-integrated context-aware decision-making pipeline for navigating social pedestrian interactions.

Aligning with UN Sustainable Development Goals 3 and 11, the project

demonstrates how integrated sensing and AI analytics can translate spatial data into actionable insights for sustainable, safe, and human-centric urban planning.

研究課題番号：IDEAS202510

研究課題名：人間の集合知を用いたバーチャルリアリティ（VR）空間における
空き家現地調査の精度向上に向けた研究

研究代表者：秋山祐樹（東京都市大学）

研究概要：全国的な空き家の増加に伴い、迅速な実態把握が求められる一方、従来の現地調査は多大な労力やコストを要する課題がありました。本研究では、和歌山県田辺市東陽地区を対象に、ドローン（DJI MAVIC 3T）空撮画像から高精細な 3D モデルを構築し、VRChat 上に VR ワールドを展開して空き家調査を実施しました。48 人の被験者による判定結果を統合（集合知）し分析した結果、単独の判定に比べて安定した精度が得られ、閾値調整により網羅的な一次スクリーニングから重点候補の抽出まで柔軟な運用が可能であることが判明しました。さらに、被験者数と精度の収束挙動の分析から、15・20 人程度で精度が概ね収束し、25 人程度で実務的に十分安定した結果が得られることが実証されました。田辺市職員の評価でも、死角や危険兆候を事前確認できる現地調査前の補助ツール（一次スクリーニング）としての実務的有効性が確認されました。今後はデータ整備コスト削減や操作性改善を進め、現地調査と組み合わせた運用モデルの確立を目指します。

研究課題番号：IDEAS202511

研究課題名：ドローンを用いた大気流速場の局所計測

研究代表者：山田琢磨（九州大学）

研究概要：本研究では中部電力御前崎風力発電所にて、複数機のドローン（DJI Mavic 3 Enterprise 等）の傾きやモーター回転数から風速を算出する手法を用い、風車前後の風速計測を行いました。機体を 5m/s で 2 次元パターンに移動させて風速断面を計測する新手法を導入した結果、風車後方では風速が外側より約 50～60%減速することを確認しました。また後方 50m～170m の計測により、離れるにつれてウェイク構造が徐々に崩れていく 3 次元挙動を短時間で捉えることに成功しました。今後は風速絶対値の精度向上のため、風洞実験による校正や最適な移動速度の検証を進め、高精度な 3 次元風速分布の計測手法の確立を目指します。

研究課題番号：IDEAS202512

研究課題名 : 妙高笹ヶ峰におけるニホンザル分布拡大と環境変化モニタリングへの
デジタルアースの活用

研究代表者 : 赤見理恵 (公益財団法人日本モンキーセンター)

研究概要 : 本研究は、ニホンザルの分布域が拡大している新潟県妙高市笹ヶ峰地域を対象に、デジタルアース技術を融合したモニタリング基盤の構築と市民参加型環境保全モデルの創出を目指した取り組みである。無雪期および積雪期のフィールド調査を通じて、センサーカメラやドローンによるデータの収集と飛行ルートの検証を行うとともに、積雪期としては初となる標高 1,700m 以上の高標高域におけるサルの生息を確認した。また、ArcGIS Online を活用した可視化マップをウェブアプリ化して 1 日単位の動向把握を可能にし、地元行政機関や関係者と協力したユーザー参加型システムの試行運用および SNS やイベントを通じた情報発信を実施した。これにより、多様な主体の連携による継続的なモニタリング手法の確立と、地域社会と野生動物の調和に向けた技術的・社会的基盤を整備した。

研究課題番号 : IDEAS202513

研究課題名 : Big Data and AI Driven Vision-Language Change Detection
for Sustainable Earth Monitoring

研究代表者 : Man Duc Chuc (Vietnam National University)

研究概要 : This study presents DRAGON (Disaster Reasoning And seGmentation), a 1.7-billion-parameter unified vision-language framework designed for bi-temporal remote sensing disaster analysis. The framework unifies bi-temporal referring segmentation, multiple-choice visual question answering (VQA), and open-ended text generation within a single autoregressive architecture. It introduces three task-oriented control tokens: <seg> and <rej> to execute pixel-level segmentation while explicitly detecting target absence, and <ans> paired with an Answer Decoder to perform reliable constrained-answer selection. Evaluated on the DisasterM3 benchmark, DRAGON-shared achieved 75.05% average multiple-choice VQA accuracy (compared to 56.85% for Qwen3-VL-2B-Instruct) and 58.13% mIoU in referring segmentation (compared to 44.80% for LISA-7B). The findings demonstrate that segmentation supervision enhances spatial reasoning and mutually reinforces VQA performance within a shared model.

研究課題番号：IDEAS202514

研究課題名：多様なデータソースから得られる属性情報を統合した
求心力のある飲食店の都心・郊外立地特性

研究代表者：中西航（東京科学大学）

研究概要：本研究は、金沢市および周辺地域を対象に、集約型都市構造の構築に不可欠な飲食店の立地メカニズムの解明を目指したものです。ゼンリン、食べログ、Google Maps、営業許可施設の4種のデータソース比較から営業許可データが最も網羅的である一方、全ソース共通店舗は一部にとどまり単一データ依存の限界を確認しました。また現地・Web調査で座席数や駐車場などの詳細属性の付与を試行し、現地実態との差異等の課題を抽出しました。さらに空間可変負の二項回帰モデルを用い、100mメッシュ単位での立地モデルを構築しました。分析の結果、昼間人口や商業・工業系用途地域、DID地区が立地を増加させる一方、公共交通アクセスの影響には空間的不均一性がみられ、郊外における自動車依存型の集積実態が定式化されました。今後はロコミデータ等を活用した店舗の「魅力度指標」をモデルへ取り込むことが課題となります。

研究課題番号：IDEAS202515

研究課題名：感染症パンデミックの時空間ダイナミクス解析

研究代表者：佐々木真（日本大学）

研究概要：本研究は、国内のCOVID-19感染者数データに見られる「数か月周期の繰り返し（時間ダイナミクス）」と「地域間のほぼ同位相・同周期な同期（空間ダイナミクス）」の双方を統一的に説明する数理モデルの構築を目的としています。従来のSIRモデルや季節変動モデルでは数か月単位の持続的な長周期振動を表現できません。そこで本研究では、回復者の免疫が特定期間を経て段階的に消失する「多段免疫消失メカニズム（アーラン分布）」を導入しました。これにより、季節変動に依存せず、免疫消失時間を内部時定数とする数か月周期の自励振動を再現することに成功しました。さらに、人口密度に応じた固有周期を持つ地域モデルを、交通データに基づく地域間人流で結合したモデルを構築しました。その結果、地域間の人流交換（結合強度）によって固有振動の引き込みが起これ、全国規模で位相同期が生じることが実証されました。本成果は、時間的な感染波の再発が多段免疫消失に起因し、地域間の広域な挙動の一体化が人流に由来することを示しています。

カテゴリ 2：問題複合体の具体的事例への取り組み

2-1：防災・減災情報のデジタルアースへの投入と利用サービス

研究課題番号：IDEAS202516

研究課題名：停電履歴情報に基づく令和6年能登半島地震による
停電地域・期間 GIS データの作成

研究代表者：杉本賢二（大阪公立大学）

研究概要：本研究は、令和6年能登半島地震における北陸電力の「停電履歴情報」と総務省の境界データを統合し、能登半島7市町を対象とした町丁・大字（小地域）単位の停電 GIS データを作成・可視化したものです。市町村単位では捉えきれない微細な空間解像度で停電戸数や復旧率の時系列変化を分析しました。分析の結果、最大停電戸数の合計は発災翌日の1月2日（26,460戸）より3日（33,200戸）のほうが多くなりました。これはアクセス困難だった奥能登地域（珠洲市等）の停電状況が時間経過とともに判明したためと考えられます。また、七尾市や志賀町が早期復旧した一方、輪島市や珠洲市の山間部・太平洋側では発災1ヶ月後も復旧率が8割台にとどまるなど、局所的な被害の偏在や長期化の実態を明示しました。今後は現地での停電把握の精度向上や、通行止め等の交通アクセス性を考慮した復旧推計の精緻化が課題となります。

研究課題番号：IDEAS202517

研究課題名：「未災地」における CLAS-GNSS および Hand-held Laser Scanner を
用いたデジタルマッピングとその利活用

研究代表者：岩佐佳哉（福岡教育大学）

研究概要：本研究は、南海トラフ地震による被害が想定される高知県室戸半島の室津港と津呂港を「未災地」の対象とし、災害発生前の景観や地形を精密な3Dデータとして記録・保存することを目的としています。撮影には、準天頂衛星「みちびき」の測位補強情報を利用する低価格な CLAS-GNSS 受信機（Drogger）と、位置情報を同期できるアクションカメラ（GoPro）を組み合わせたシステムを使用しました。標定点を設置することなく、位置情報が紐づいた実寸大の3DモデルやDSM（数値表層モデル）の作成を簡便に行う手法を確立しました。さらに、3D Gaussian Splatting を用いた処理を導入したことで、従来のフォトグラメトリではぼやけやすかった細部の地物まで実物に近い精度で再現することに成功した。また、簡易 LiDAR（Livox Mid-360）と SLAM（GLIM）による計測・検証も実施しています。記録された3Dデータはデジタルアース・アーカイブとして保存されるだけでなく、地域住民が三次元的な視点から災

害リスクや事前復興について協議・検討するためのサイエンス/リスクコミュニケーションツールとしての活用が期待されます。

研究課題番号：IDEAS202518

研究課題名：地震災害予測のための地球観測データのデジタルアースへの適用
－地震活動の Natural Time 解析－

研究代表者：長尾年恭（東海大学）

研究概要：本研究は、地球物理学的観測データを中部大学のデジタルアースサーバー上でモニタリングし、地下の状態や地震発生の危険性を地域で共有・評価するシステムの開発を目的としています。今年度は地震活動解析の高度化として、従来の時刻ではなく発生順序に基づく時間概念である「Natural Time」を用いた解析手法（秩序パラメーター κ_1 の変動パラメーター β_w や動的エントロピー ΔS_i 、複雑度 Λ_i 等の算出）を自動化し、Web 公開システム（https://strain.isc.chubu.ac.jp/leaflet/index_NTA.html）へ実装しました。解析の結果、大地震発生前の応力蓄積などの臨界状態への接近を評価できることが確認されました。北海道・東北地方沖においては低 b 値領域が広がっているほか、Natural Time 解析のパラメーター（ Λ_i の交差現象等）からも系が臨界に近い状態にあることが示唆されており、引き続き地震活動の注視が必要であると結論付けられています。

研究課題番号：IDEAS202519

研究課題名：アジアの活断層図のデジタルアースへの投入と利用サービスの向上

研究代表者：中田高（広島大学）

研究概要：本研究は、専門家が作成したアジア全域の詳細な活断層分布図および関連情報をデジタルアースプラットフォームへ統合し、安全な住環境把握や防災・減災に寄与する効率的な利活用を目指した取り組みです。4年間にわたる研究の総仕上げとして、適切な起伏強調度（3.5倍）のアナグリフ画像を用いて Google Earth 上での活断層線分データの最終確認を実施したほか、断層名・走向・変位様式などの属性データの統一的整備を行いました。また、AW3D30 DSM を基に全球陸域（北緯 65 度～南緯 65 度）をカバーする約 840 シーン・3 種類の垂直強調度（計 2,500 ファイル以上・約 1GB）のアナグリフ画像データセットを構築しました。作成したデータセットは、活断層判読のみならず氷河地形や火山地形などの高度な判読・地理教育にも有効であることが示され、中部大学国際 GIS センター（ArcGIS Online）等を通じて無償提供・利活用を進める環境が整えられています。

研究課題番号：IDEAS202520

研究課題名：デジタル急峻地形

研究代表者：井上公（防災科学技術研究所）

研究概要：本研究は、山岳・峡谷・海岸などの急峻地形（斜面・崖等）を地上・無人機・船上等から撮影し、3次元地形モデルの作成・アーカイブ・共有を行うプロトタイプシステムを構築することで、地形に起因する災害や事故の対応・危険度評価に役立てることを目的としています。

従来のX-Y平面座標に基づくデジタル地形データや空中写真では、傾斜が急になるほど情報の精度が劣り、鉛直を超えると情報が得られないという課題（危険・貴重な場所ほど情報が不足する状態）がありました。本課題では、日本各地の山岳（西穂高岳、明神岳、白馬岳、槍ヶ岳等）や海岸崖、ヒマラヤの氷河などの空撮・地上画像を取りまとめて3次元モデル化（SfM/MVS処理）を実施しました。

あわせて、規制に対応した100g未満の超小型ドローンや自作の滑空固定翼機による簡易な空撮手法の検証を行うとともに、将来的な国内1万箇所のデータベース化を見据えたシンプルなファイル命名規約・フォルダ管理体系を整理しました。さらに、WordPressを活用した画像および3Dモデル（PDF・KMZ形式等）の試作公開ページを構築し、持続的なデータ共有手法を提案しています。

研究課題番号：IDEAS202521

研究課題名：災害記憶の継承システムの構築

—地域から学校への社会的実装に向けて—

研究代表者：池庄司規江（茨城大学）

研究概要：本研究は、地域に蓄積された災害記憶や教訓を地域社会および学校教育で活用可能な形で継承する「社会実装型の災害記憶継承システム」の構築を目的としている。令和元年東日本台風で被災した茨城県大子町を対象とし、GISや3Dプリンターで作製した立体地形模型を用いた教科横断型の防災教育教材を開発した。茨城県内の中学校で実施した授業実践では、平面地図では分かりにくい地形と災害の因果関係（高低差と浸水リスク等）を生徒が直感的に理解できる効果が確認された。生徒が模型上で浸水範囲を予測し、避難経路を主体的に考えることで、未災者であっても地域の危険予測や行動選択の能力が高まることが示された。今後は小学校での建物模型配置等のSTEAM教育や災害アーカイブとの連携を通じ、双方向的な災害記憶の共創を図る。

2-2：防災・減災情報のデジタルアースへの投入と利用サービス

研究課題番号：IDEAS202522

研究課題名：リモートセンシングデータを活用した森林の年齢と
森林情報に関する研究

研究代表者：林希一郎（名古屋大学）

研究概要：本研究は、衛星リモートセンシングデータと古地図等を活用し、広域における森林の年齢区分を大まかに推計する手法を検討するとともに、推計した年齢区分と各種森林関連指数との関係を分析した。LandTrendr (LT) アルゴリズムや過去の衛星画像、古地図、航空写真等を組み合わせることで 70 年間の森林区分を分析し、現地調査や LiDAR・UAV データを用いてその精度を検証した。検証の結果、推定した森林年齢区分は胸高直径 (DBH) 等の現地データと概ね傾向が一致した。さらに、NDVI をはじめとする森林関連指数を分析したところ、夏季の NDVI ピーク値が林齢の増加に伴い鮮明になるなど、森林年齢区分や季節に応じた指数値の変動特性が見られることが明らかとなった。本手法は、森林情報の蓄積が少ない途上国等の地域への応用や、森林状況把握のための新たな指標活用が期待される。

研究課題番号：IDEAS202523

研究課題名：多様な天候下における広域暑熱リスクの可視化サービスシステム構築
研究代表者：安室喜弘（関西大学）

研究概要：本研究は、晴天時に限らず曇天・多湿時など多角的な気象条件に対応した「広域暑熱リスク (WBGT) の可視化システム」の構築を目的としている。公開気象情報（気温、湿度、雲量等）からガウス過程回帰 (GPR) を用いて地表の水平面全天日射量を高精度に推定し、日射直散分離モデルを通じて直達光と天空散乱光に分離した。これをゲームエンジン (Unreal Engine) 上の光源条件（平行光・環境光）として反映し、リアルタイム GI（大域照明）処理を行うことで、建物の陰影や天空光の影響を含む日射分布と画素単位の WBGT を動的にヒートマップ表示する手法を開発した。キャンパス内での実測データ（102 組）を用いた検証では、従来の快晴前提手法（平均誤差 2.62℃）に対し、提案手法は平均誤差 1.21℃と大幅な精度向上を達成し、多様な天候下における実用的な熱中症リスク評価基盤としての有効性を実証した。

研究課題番号：IDEAS202524

研究課題名：リモートセンシングと潜水による三陸海岸南部の藻場のモニタリング

研究代表者：米澤千夏（東北大学大学院）

研究概要：本研究は、デジタルアースの枠組みにおいて、ドローン（UAV）や人工衛星等のリモートセンシング技術と現地調査（潜水・水中カメラ）を組み合わせ、沿岸域の藻場分布と大規模山林火災被害の把握およびモニタリング手法を実証したものである。岩手県大船渡市の越喜来湾・綾里湾における藻場調査では、高度 500m からのドローン特定飛行により広域・高解像度のオルソモザイク画像を作成し、既存調査に未記録の海草群落（アマモ等）の分布を明瞭に可視化・確認した。また、2025 年に同市で発生した大規模山林火災の被害解析では、Sentinel-2 や小型衛星 GRUS-1 の時系列画像から NDVI（正規化植生指標）を算出し、植生の被害範囲や展葉・下層植生による回復過程を定量評価した。ドローンによる詳細な局所観測と衛星による広域・時系列観測を相補的に統合することで、沿岸生態系保全や災害・環境管理の高度化に寄与する基盤を構築した。

2-3：SDGs 指標に関する情報のデジタルアースへの投入と利用サービス

研究課題番号：IDEAS202525

研究課題名：ローカル SDGs 指標に基づく施策議論プログラムの ESD 活用研究

研究代表者：田開寛太郎（都留文科大学）

研究概要：本研究は、ローカル SDGs 指標やデジタルアース（GIS）を活用した「施策議論プログラム」を開発・社会実装し、人材育成（ESD）と地域の政策形成プロセスを融合させることを目的とした。高校教育分野では、地理総合向け GIS 教育パッケージをパンフレット型教材として汎用化し、飯田女子高等学校での実践授業を通じて生徒・教員双方における有効性を検証した。行政支援では、飯田市職員を対象に生成 AI と庁内 GIS を組み合わせたワークショップを実施し、多様な政策課題（インフラのメンテナンス、熊出没対応等）の可視化とクロス分析を通じて、職員の横断的思考と業務活用イメージを定着させた。さらに、一般市民向けのポスターブース型 GIS 体験や、ユース・民間団体が参画するオンラインフォーラム（SDGs 学生サミット）を開催し、デジタルアースを媒介とした地域課題解決と主体的学びを繋ぐ ESD 実践モデルを確立した。

研究課題番号：IDEAS202526

研究課題名：流域圏 SDGs 評価モデルの構築に関する研究
ー持続可能な流域圏のデザインに向けた指標活用の検討ー

研究代表者：水木千春（三重大学）

研究概要：本研究は、行政境界を越えた自然環境の連続性に着目し、河川流域圏を基盤とするローカル SDGs 評価モデルの構築を目指した。大阪・関西万博のサブテーマ（「いのちをつなぐ」「いのちを救う」「いのちに力を与える」）の提言枠組みを援用し、土地利用、災害対応、ESD などの 9 つの地域課題に対応するローカル指標および地域主体の行動を示す「ローカル行動指標」を策定した。三大都市流域圏（東京湾・大阪湾・伊勢三河湾）を対象に、GIS や ESRI ストーリーマップを用いたオンライン情報プラットフォームを構築し、各課題の地理情報と地域活動団体情報を統合して可視化した。また、三重大学でのディスカッションや庄内川・新川流域でのフィールドワークを伴うワークショップを実施した。その結果、客観的な GIS データと住民の経験知や歴史的表現（江戸期の水害絵図等）を組み合わせる必要性が明らかとなり、専門知と市民知を接続して異分野連携や対話を促すコミュニケーション基盤としての ESD・SDGs 評価モデルの有効性を提示した。

2-4：ワンヘルスに関する情報のデジタルアースへの投入と利用サービス

研究課題番号：IDEAS202527

研究課題名：GIS を用いた健康リスクの可視化と感染拡大の原因究明による感染症対策への提言

研究代表者：叢日超（静岡文化芸術大学）

研究概要：本研究は、将来の感染症アウトブレイク防止や医療資源の効率的運用に向け、人流データと AI 技術を組み合わせた日別新規感染者数（COVID-19）の高精度な将来予測手法の開発・検証を目的とした。過去の感染実績データ（陽性者数・死亡者数等）、相談件数、および KDDI Location Analyzer (KLA) から取得したホットスポット施設（飲食店、学校、病院等）の GPS 人流データなど 9 つの独立変数を整理し、MATLAB 2024a を用いて 35 種類の機械学習・深層学習モデルによる学習・検証を実施した。東京都を対象とした検証期間（2023 年 5 月 1 日～7 日）において、「Medium Neural Network」モデルが最も優れたパフォーマンス（RMSE: 1691.2, R^2 : 0.93, MAE: 831.15）を示し、最高予測精度 99%（平均 62%）を達成した。検証後半に生じた予測精度の低下に対しては、説明変数の予測精度向上や新たな変数の導入

といった課題を明確化し、GIS と人流データを活用した感染症予測および対策提言のための基礎的手法を提示した。

一般研究

研究課題番号：IDEAS202541

研究課題名：GIS を用いた薬用植物オオツヅラフジの持続可能な利用のための
潜在分布域評価

研究代表者：渥美聡孝（九州医療科学大学）

研究概要：本研究は、生薬「ボウイ（防已）」の原料であり需要が増加している薬用植物オオツヅラフジについて、野生資源の持続可能な利用および効率的な供給体制構築を目的に、GIS と MaxEnt を用いた種分布モデル（SDM）による潜在分布域の評価を行った。2021 年～2025 年の野外調査データ（九州・四国エリア）を空間的に間引いた 104 地点と、地形・気候・土壌などの環境変数を用い、正則化係数（RM）の最適化を実施した。モデル評価（AUC、omission 率、AICc 等）に基づき、過学習を抑えた最適条件として RM=1.5 を選定した。解析の結果、九州・四国における潜在適地は対象地域の約 35.7%（21,406 km²）に及び、特に四国山地から九州山地にかけての中山間・山地エリアに高適性域が集中することが明らかとなった。本成果は、従来経験に頼っていた野生資源の探索・採取計画の客観的・データ駆動型支援に加え、将来的な粗放栽培候補地の選定など持続可能な薬用資源利用の基盤手法として期待される。

研究課題番号：IDEAS202542

研究課題名：災害時の指定公共機関からの局所避難情報提供による
レジリエント・シティの実現

研究代表者：山崎達也（新潟大学）

研究概要：本研究は、災害時の迅速な避難行動とレジリエント・シティの実現を目指し、避難所の設備情報を統合・標準化したデータベースの構築を行ったものである。従来、国土地理院のデータを基に位置や災害種別等を管理する指定緊急避難場所データベースを構築・自動更新してきたが、自治体ごとに個別管理される避難情報のフォーマット不統一や不十分な標準化が利活用の課題となっていた。そこで本研究では、到達後の避難生活を見据え、新潟県内自治体のオープンデータ等から「AED」「公衆トイレ」「バリアフリー設備」「備蓄品」の 4 つの設備情報を新たに収集・統合した。バラツキのある公開形式やカラム構成に対し、デジタル庁の標準オープンデータセットの基準

適用や手作業による形式変換等を経てデータの統一化を実現した。本取り組みにより、高齢者や障害者など多様なニーズに対応する避難支援の基盤が整うとともに、全国展開に向けた自治体データの標準化や収集自動化の必要性が明確となった。

研究課題番号：IDEAS202543

研究課題名：衛星ビッグデータを活用したブドウ葉巻病の病徴調査

研究代表者：市橋泰範（理化学研究所）

研究概要：本研究は、果実の品質や収益性に悪影響を及ぼすブドウ葉巻病の全国的な感染状況を把握するため、人工衛星データを用いた病徴評価手法の開発および実地調査・多角解析を行った。「eMAFF 農地ナビ」やストリートビューで抽出した全国の棚栽培ブドウ圃場を対象に、Planet Labs の衛星画像から 8 月～11 月における正規化植生指数（NDVI）の経時変化を解析した結果、11 月に NDVI が大きく減少する傾向から感染の有無を判別可能とした。45 地点の調査により罹患率 44% という結果を得て、既存の疫学報告と一致する有効性を示した。また、愛知県・静岡県の圃場において休眠枝を用いた PCR 検査を実施し、ブドウ葉巻随伴ウイルス（GLRaV3）の感染状況を確認するとともに、ブドウ樹および周辺土壌のマイクロバイオーーム（アンプリコン・メタゲノム解析）調査を行った。地域ごとに菌叢の多様性が確認された一方、ウイルス感染との直接的な相関解明には更なるサンプル蓄積の必要性が示された。

学生研究

研究課題番号：IDEAS202551

研究課題名：Estimation of Forest Resources Based on Multi-Platform LiDAR Data and Analysis of the Impact of Climate Change on Forest Disturbances

研究代表者：Hantao Li (The University of Tokyo)

研究概要：This study established a national-scale framework to estimate annual aboveground biomass density (AGBD) dynamics across Japan from 2009 to 2018 and separate climate-driven changes from human disturbance effects. Spaceborne Global Ecosystem Dynamics Investigation (GEDI) LiDAR footprint data (2019–2023) were aggregated into 1 km grid cells and combined with multisource satellite predictors (MODIS vegetation indices, spectral bands) and topographic data to train Random Forest regression models. The optimal model—achieved with a minimum threshold of 28 footprints per cell—demonstrated strong agreement with National Forest Inventory (NFI) data ($r = 0.87$, $RMSE = 31.73 \text{ Mg ha}^{-1}$). The

analysis revealed a national mean AGBD increase of $0.21 \text{ Mg ha}^{-1} \text{ yr}^{-1}$, with undisturbed forests showing a stronger gain ($0.43 \text{ Mg ha}^{-1} \text{ yr}^{-1}$) driven by climate factors and aging stands, while disturbed forests exhibited a decline ($-0.20 \text{ Mg ha}^{-1} \text{ yr}^{-1}$) due to harvesting and management. This work provides a robust data-driven foundation and uncertainty framework for forest carbon monitoring and climate change policy.

研究課題番号：IDEAS202553

研究課題名：機械学習を用いたリモートセンシング画像からの
東北地方太平洋沿岸のタブノキの分布推定

研究代表者：成澤朋紀（東北大学）

研究概要：本研究は、照葉樹の北限域にあたる三陸海岸沿岸地域（宮城県石巻市周辺）を対象に、高解像度（0.6m）の国土地理院電子国土基本図（オルソ画像）と機械学習手法（CNN、SVM、RF）を用いて、残存するタブノキの分布推定およびデータの有用性検証を行った。U-Net を用いた CNN 分類では、群落数の少なさや小面積であることに起因して他樹種との誤分類が多く発生し、F 値は 46.4%にとどまった。一方で、ArcGIS Pro を用いた SVM および RF 分類では、過大評価やごま塩ノイズの課題を残しつつも、タブノキの F 値は約 80%（SVM: 79.7%、RF: 84.4%）を達成した。この結果は衛星画像を用いた従来の推定手法を上回る精度であり、小規模かつサンプル数が限られる樹種の分布把握において、高解像度オルソ画像と SVM・RF の組み合わせが有効であることを示した。

研究集会

研究課題番号：IDEAS202561

研究課題名：デジタルアース、市民対話、そして社会物理学：集合的意思決定にかかわる態度・能力変数の分布と変容

研究代表者：中村秀規（富山県立大学）

研究概要：本研究（研究集会）は、集合的意思決定における市民対話を通じた参加者の態度・能力変容に関し、社会物理学によるモデル化とデジタルアース（DE）の記号論的特性に基づく意思決定への活用可能性を検討した。対話への態度や協働範囲に関する態度変容確率（ p ）や市民対話参加率（ ρ ）の上昇が平均的な態度自己評価（ F ）を向上させる予備的社会物理学モデルを提示し、変容確率と参加率の積が閾値を超え

ると集団の態度分布が好転することを示した。また、モスクワ国立大学の Eugene Eremchenko によるオンライン講演を通じて、地図（非記号→記号）、GIS（記号→記号）から DE（記号→非記号）への発展系譜と「記号によらない（non-sign）意味伝達」の重要性を提示した。これらの成果により、対話・反省性変数と市民参加行動を紐付けた政策提案型モデルの構築および DE を活用した集合的意思決定手法の開拓に寄与した。

5. 2. アジアサマースクール

2025 年度のアジアサマースクールは、8 月 24 日から 9 月 6 日まで約 2 週間にわたり、タイ、バンコクの AIT にて行われた。本学からの日本人 8 名を含め、6 か国（日本、タイ、ベトナム、フィリピン、ラオス、ネパール）、8 大学から 16 名の参加があった。スクールでは、講義、実習のほかフィールドトリップを行い、GIS、SDGs に関連する基本事項および最新動向について理解を深めた（以下の表 1 を参照）。講義はすべて英語で行われ、参加者間も基本的には英語でコミュニケーションを行い、相互交流も深めることができた。

表 1 アジアサマースクール講義・フィールドトリップ日程

Date		Program
Mon	25	▪ Welcome and Lecture at AIT
Tue	26	▪ Lecture at AIT
Wed	27	▪ Hand on at AIT
Thu	28	▪ Visit GISTDA Sriracha and Space Inspirium*2 - visit Kubota smart farm
Fri	29	▪ Lecture at AIT
Sat	30	▪ Ayutthaya cultural trip
Sun	31	▪ Free time
Mon	1	▪ Big Data and AI technology for society (SIIT)
Tue	2	▪ Lecture at AIT
Wed	3	▪ Hand on at AIT- visit EGAT Learning Center and Bangkok
Thu	4	▪ Lecture at AIT
Fri	5	▪ Individual Presentation, Summary and Discussion, and Closing ceremony at AIT

